



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	ブラジル・パルマス銀行調査報告書
Author(s)	西部, 忠; Nishibe, Makoto; 橋本, 敬 他
Citation	Discussion Paper, Series B, 104, 1-79
Issue Date	2012-05
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/49251
Type	departmental bulletin paper
File Information	DPB104_new.pdf



Discussion Paper, Series B, No. 2012-104

ブラジル・パルマス銀行調査報告書

西部忠・橋本敬・小林重人・

栗田健一・宮崎義久・廣田裕之

2012 年 5 月

北海道大学大学院経済学研究科

060-0809 札幌市北区北 9 条西 7 丁目

ブラジル・パルマス銀行調査報告書

西部忠^{†1}・橋本敬^{†2}・小林重人^{†3}・栗田健一^{†4}・宮崎義久^{†5}・廣田裕之^{†6}

2012 年 5 月

はじめに

私たちは 2011 年 2 月 21 日より 25 日まで、ブラジル・セアラ州フォルタレザ郊外パルメイラ地区にあるパルマス銀行を訪問して、その設立者、従業員、近隣小売業者などの関係者にインタビューを行い、同銀行の沿革や特徴、および、その近隣の経済社会への影響を調査した。本調査報告書の目的は、このインタビューの内容を参照可能な一次資料として記録し、公刊することにある。

1998 年にジョアン・ジョアキン・メロ（João Joaquim de Melo）を中心として設立されたパルマス銀行は、通常の銀行と異なり、地域内だけで流通する地域通貨を発行して、地元の企業・小売業者や消費者に貸し付けたり、衣類、洗剤、観光における独自のプロジェクトを設立支援して地元の事業や雇用を創出したりすることで、地域経済社会の自立的、内発的な発展に大きく寄与してきた。

21 世紀に入り、市場経済のグローバル化・脱工業化・金融カジノ化が経済を不安定にし、人びとの生活をおびやかしてきた。だが、国家レベルの財政・金融政策は奏功せず、日本は「失われた 20 年」の中で長引く不況や経済格差の拡大を経験している。日本を初め欧米の先進国の多くの地域で、地域の経済を活性化するとともに、地域コミュニティを再生・賦活するためのシステムとして地域通貨（コミュニティ通貨）が数多く試みられ、アルゼンチンやブラジルなど途上国でも実施されてきている。また、特に途上国では、貧困層の経済的自立や生活の質の向上を促進する試みとして、互助グループに事業資金を融資するグラミン銀行（バングラデシュのムハマド・ユヌスが 1983 年に設立）のマイクロファイナンス（少額融資）が注目されてきた。

パルマス銀行は、銀行が地域通貨を発行・融資して企業支援と地域経済賦活を行うという世界でもまだ例を見ないユニークな試みである。それは、地域通貨やマイクロファイナンスに部分的に似ているものの同じではなく、おのおのの長所を生かし、短所をうまく克服する優れたシステムである可能性がある。もちろん、ブラジルの特有な経済社会の環境の中ではうまく行くが、他の途上国や先進国の環境にはうまく適応しないこともありうるので、注意が必要である。

こうしたことを念頭に置きながら、パルマス銀行はいかなる背景や特徴を持つのか、いかにして地元の企業や人びとに受け入れられ、広く普及することにより地域経済の発展に寄与することができたのかを、二次資料や文献によってではなく、関係者のインタビューを通じて調査した。その際、当事者であるパルマス銀行関係者のミクロレベルの価値意識や行動が、メゾレベルの通

^{†1} 北海道大学大学院 経済学研究科 教授 nishibe@econ.hokudai.ac.jp

^{†2} 北陸先端科学技術大学院大学 知識科学研究科 教授 hash@jaist.ac.jp

^{†3} 北陸先端科学技術大学院大学 知識科学研究科 助教 s-kobaya@jaist.ac.jp

^{†4} 慶應義塾大学 SFC 研究所 上席所員（訪問）kuririne@nifty.com

^{†5} 小樽商科大学商学部 学術研究員（地域研究会）frontier-spirit-21-y.m@nifty.com

^{†6} mig@olcej.net

貨・銀行制度の意味や特性、さらに、マクロレベルの当地区や他地域の経済社会へ影響を与えるとともに、その逆に、メゾやマクロの変化が人びとの価値意識や行動に影響を与えるような双方向的な規定関係に着目した。こうしたミクロ・メゾ・マクロのレベル間の相互作用を通じて、パルマス銀行がパルメイラ地区の住民の意識や行動や経済・生活に対してもたらしたダイナミックな変容を理解することができるであろう¹。

一般に、貨幣を含む経済社会制度は、競争を通じて単一の効率的なシステムへいずれ収斂するという見方が広がっている。しかし、私たちは、性質を異にする複数の制度が互いに補完・代替関係を築きながら共存し、多様性を保存しながら共進化するという「制度生態系」の理論仮説をもって調査研究を進めている²。この見方は 2001 年前後のアルゼンチンや現代の日本にはよく当てはまると考えられるが、ブラジルではどこまで当てはまるのか。このことをも念頭に置きながら、インタビューに臨んだ。

貨幣制度生態系に関しては、この間、小林、橋本、栗田、西部が共同で人びとが貨幣の使用や貨幣制度のあり方（目的、発行、形態、運営などの）についてどのような意識を持っているかを調べる貨幣意識調査を国内外のさまざまな地域や集団に対して実施してきた³。今回も、パルマス銀行関係者、および、ASMOCONP（住民自治組織）の集会参加者にたいして貨幣意識調査を実施したので、その分析結果を巻末に収録した。

現在、科学研究費補助金を受けて共同研究「制度生態系アプローチによる経済政策論の研究:進化主義的制度設計と地域ドック」（平成 21～24 年度）を進めている⁴。本調査には、その中の制度生態系班に属する研究代表者の西部と研究分担者の橋本に加え、研究協力者の小林（平成 24 年度より研究分担者）・栗田・宮崎など若手研究者が参加した。この 10 年、この 5 人全員ないし数人が参加して、国内外の貨幣意識調査や国内外の地域通貨調査（北海道苫前町「P」、東京都武蔵野市「むチュー」、山梨県韮崎市・北杜市「アクア」、北海道更別村「サラリ」、アルゼンチン「グローバル交換リング」等）を共同で行ってきた。今回、ブラジルの公用語であるポルトガル語が堪能だけでなく、世界各国の地域通貨に精通し、今回の調査対象であるパルマス銀行に詳しい廣田も参加し、ポルトガル語しか話せない関係者との間で通訳を担当するとともに、事前・事後のミーティングの討議にも参加した。こうして、本調査は以上の 6 人により実施された。

本調査の日取り、各インタビューのスケジュール、パルマス銀行のツアーガイドなどについて、現地のコーディネーターであるパトリシア・モリジオ（Patricia Morizio）さんやクレシア・ネ・カヴァルカンテ（Cleciane Cavalcante）さんにお世話になった。パルマス銀行の設立者であるジョアン・ジョアキン・メロさんや ASMOCONP 執行委員のマリア・ソコーホ・アルヴェス（Maria Socorro Alves）さんを初めとする関係者の方々には、出張や集会準備などそれぞれ忙しい中でインタビューの時間を作っていただいた。ここに記して謝する。

西部 忠

¹ ミクロ・メゾ・マクロ・ループという基本的フレームワークについては江頭進・澤邊紀生・橋本敬・西部忠・吉田雅明編『進化経済学基礎』日本経済評論社、2010 の第 4、7 章を参照のこと。

² 制度生態系については、同上第 7 章、および、橋本敬・西部忠（2012）「制度生態系の理論モデルとその経済学的インプリケーション」『経済学研究』（北海道大学大学院経済学研究科）61(4)：131-151 を参照のこと。

³ 貨幣意識調査については、付録参考文献を参照のこと。

⁴ <http://cc.econ.hokudai.ac.jp/institutional-ecology/>

【ブラジル・パルマス銀行 調査訪問インタビュー記録目次】

2011 年 2 月 21 日（月曜日）

10:30-11:30	パトリシア・モリジオ（Patricia Morizio）：コーディネーター	4
14:00-15:30	クレシアーネ・カアヴァルカンテ（Cleciane Cavalcante）：パルマ・トゥール担当	4
16:45-18:00	マリア・ソコーホ・アルヴェス（Maria Socorro Alves）：ASMOCONP 執行委員	8

2011 年 2 月 22 日（火曜日）

10:25-11:55	ジョアナ・ペレイラ・デ・ソーザとセナ・ペレイラ・デ・ソーザナ （Joana and Senna Pereira de Souza）：スーパー商店主	11
14:00-15:40	ジョアン・ジョアキン・メロ（João Joaquim de Melo）：パルマス銀行創設者	14

2011 年 2 月 23 日（水曜日）

9:30-10:45	ドナ・ダルシリア（Dona Darcília）：パルマ・ファッションのコーディネーター	22
12:00-13:15	クレシアーネ・カアヴァルカンテ（Cleciane Cavalcante）：パルマ・トゥール担当	25
15:00-16:15	アリ・セレオ・レージェス・メンデス博士（Dr. Ari Celio Reges Mendes）： セアラ州政府労働社会開発局労働収入推進課長ほか 2 名	28
18:00-19:15	ジバニルソン・オランダ（Givanilson Holanda）：パルマス銀行融資担当	31

2011 年 2 月 24 日（木曜日）

9:00-10:00	ドナ・イナシアとサミア・イナシア（Dona Inácia and Samya）： 女性企業家とその娘（大学生）	34
10:30-10:50	ドナ・ノエミア（Dona Noêmia）：Bar do Kadir 飲食店経営者	38
11:00-12:15	エリアス・リノ・ドス・サントス（Elias Lino dos Santos）： パルマ・リンピのコーディネーター	40
14:00-15:20	ルシアーノ・シドラック・ヴァレ・ジュニオール（Luciano Cidrack Valle Junior）： パルマス・インスティテュート担当	45

2011 年 2 月 25 日（金曜日）

16:30-17:45	ナイヂ（Neide）：教育部門のコーディネーター	54
18:30-19:00	ジョアン・ジョアキン・メロ（João Joaquim de Melo）：パルマス銀行創設者	60

巻末資料	62
パルマス銀行における貨幣意識調査	71

2011 年 2 月 21 日（月曜日）

10:30-11:30

パトリスア・モリジオ（Patricia Morizio）：コーディネーター

パルマス銀行の設立背景とその後の展開に関する概要説明（巻末資料あり）

＜パルマス銀行設立の背景＞

- ・1970 年代に、政府がフォルタレザ市沿岸部の再開発戦略を法律で定めたため、その地域の漁師や住民たちが内陸部に追いやられた。そこで 1973 年に、3 万人を超える住民が集まり、フォルタレザ郊外に「パルメイラ地区（Conjunto Palmeira）」が設立された。パルメイラ地区は水道、道路、電気などの基礎的なインフラが欠如していた。さらに、住民たちはこれまで漁業をベースとしていたため、安定した所得の収入源が確保できなかった。
- ・1981 年に、住民たちは、インフラを含めたコミュニティの改善を図るために、「パルメイラ地区住民協会(ASMOCONP: Associação dos Moradores do Conjunto Palmeira / the Association of Residents of Conjunto Palmeira)」を創設した。
- ・1998 年 1 月に、パルメイラ地区住民協会は、失業対策として、住民たちの地域における仕事や収入の機会を創出するために、パルマス銀行を創設した。

＜パルマス銀行設立以後の動向＞

- ・2000 年には、パルマス銀行は地元の商業において流通する社会的通貨パルマス（Social Currency Palmas）を創造した。
- ・2003 年には、パルメイラ地区住民協会の経験から生み出された非営利組織や市民組織を管理・運営するために Instituto Palmas が設立された。
- ・その他、パルマス銀行では、教育やファッションなど様々なプロジェクトを展開し、支援している。

14:00-15:30

クレシアーネ・カアヴァルカンテ（Cleciane Cavalcante）：パルマ・トゥール担当

パルマス銀行内のツアー（パルマス銀行とその周辺の紹介、図 1 参照）

1. パルマス・ショップ（Palmas Shop）

- ・地元で作った民芸品や服などの商品を持ち寄り、販売している。
- ・売り上げの 1%を店の運営費に当てているが、残りは生産者の利益となる。
- ・パルマス銀行に属しているので、光熱費、人件費、維持費などはあまりかからない。
- ・時間は 8 時から 18 時ごろまで、月曜日から土曜日まで営業している。

2. パルマス銀行の研修所

- ・現在、研修施設を建設中。建設にあたり、ブラジル銀行財団（Fundação Banco do Brasil）からおおよそ 20 万リアル（2011 年 2 月の為替レートでおおよそ 1000 万円）の助成金を得ており、そこで地元の様々なプロジェクトが実施される予定。

3. 音楽スタジオ

- ・STRO (Social Trade Organization) 財団と提携して、ブラジルとオランダのリズムを融合した音楽を作っている。様々なバンドが CD の録音や作成をしており、楽器も作っている。2011 年 2 月現在は、Bate Palmas Company という会社が運営している。

4. パルマス銀行 (Banco Palmas)

- ・連邦経済基金とブラジル銀行とが共同で経営しており、パルマス銀行では銀行口座の開設などを行える。
- ・建物内にはパルメイラ地区の全体マップが掲載されており、道路の舗装状況などが一目で分かるようになっている。この他、パルメイラ地区とパルマス銀行の歴史などが分かる展示物も掲示されており、アスモコンピの事務所も併設されている。
- ・毎週水曜日に、地元の住民が集まり、アスモコンピが中心となってパルメイラ地区について会議を行う。

5. パルマ・テック (Palmatec)

- ・パルマ・テックは、教育や職業訓練のためのフォーラムやイベントなどを開催する場所のことである。
- ・我々が訪問した際は、連邦政府の関連団体である CAIXA (後述) が口座の指紋認証システムの登録作業を行っていた。Bolsa Família (ブラジル政府の社会福祉プログラム)⁵から貧困層向けに資金給付をする際などに、パスワードを忘れる人が多いので指紋認証が導入されている。

6. パルマ・ファッション (Palma Fashion)

- ・生産者協同組合によって運営され、12 人の従業員が働いている。パルマブランドを確立し、ジーンズなどを製造しているが、その他にも地域外で別ブランドとして販売するために委託された服の縫製も請け負っている。
- ・本来であれば、連帯経済関連の企業から原料となる糸や布を購入したいが、現在は適当な企業が存在しないため、市街地など域外の企業から購入している。
- ・セアラ連邦大学、マリスト大学と連携し、ファッションアカデミープロジェクトを運営している。大学から派遣された講師が教育研修プログラムを実施し、3 ヶ月の研修後、パルマファッションショーが開催される。
- ・研修を受けた人は、パルマ・ファッションへ就職する人もいれば、それ以外の地元企業などに就職する人もいる。

⁵ 公式ページ (<http://www.mds.gov.br/bolsafamilia>) によると、1 人あたり収入が R\$140 未満の家庭では、子供の数や年齢などに応じて毎月 R\$ 32~R\$ 242 受給され、1200 万世帯がこの恩恵を受けている。

7. パルマス・インスティテュート (Instituto Palmas)

- ・パルマス銀行やコミュニティ・バンクの資金運営・管理をしている。
- ・Palmas の紙幣は州内の 3 カ所で特別な事業者が印刷を請け負っている。
- ・現在、ブラジル国内では、パルマス銀行の経験や支援により、52 のコミュニティ・バンクが存在する。今後さらに増加する見込みである。
- ・ベネズエラでも同様のコミュニティ・バンクが存在し、現在ではウルグアイとアルゼンチンとの間で、コミュニティ・バンクの事業を拡大しようとする交渉計画もある。

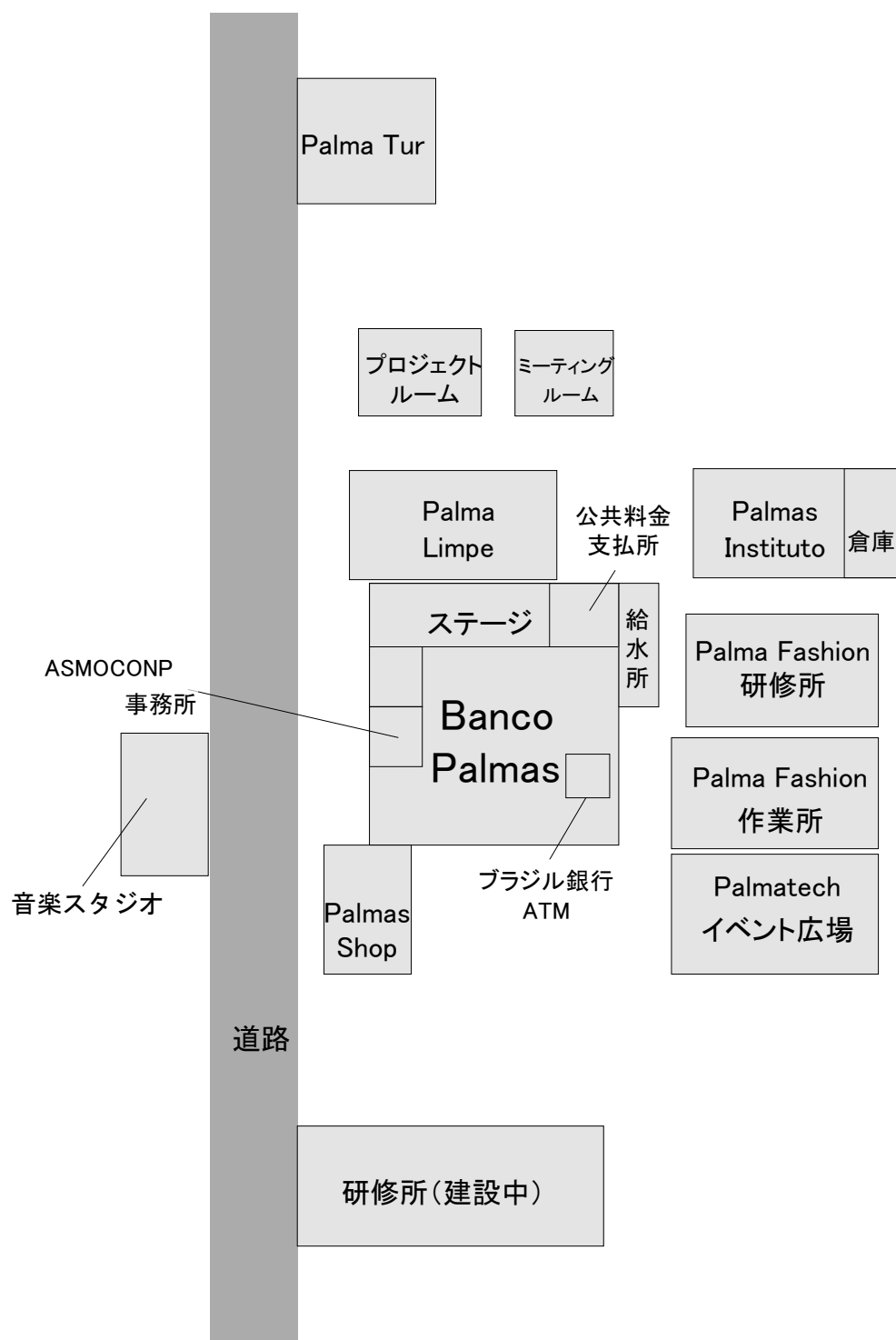
8. パルマ・リンピ (Palma Limpe)

- ・床清掃用、衣料洗濯・柔軟用、食器洗浄用の洗剤を製造し、各地の連帯経済ネットワークに販売している。
- ・毎月 2000 から 2500 リットル製造している（およそ 3 万本）。1 本あたり 0.94 レアルで販売されている。大企業の洗剤よりも 10 から 15% ぐらい安いですが、他社製でもっと安い製品もある。
- ・環境に負荷をかけないように、政府が設定する基準を満たした製品を製造している。
- ・パルマ・リンピでは単に洗剤を生産するだけでなく、その製造のための研修教育も実施している。

9. プロジェクトルーム

- ・様々なプロジェクトの企画などを行う部屋で、ここから上記のプロジェクト（パルマ・ファッション、パルマ・ツールなど）が実現した。
- ・女性インキュベータでは、女性の社会進出を手助けしており、技能を身につけて企業に就職するか、自ら起業するのを支援している。
- ・競争率の高い国公立大学へ行くのを支援するための予備校プロジェクトが存在する。セアラ州政府が資金を提供し、パルマス銀行が事業を運営している。国公立大学の授業料と予備校の受講料は無料である。この 2 年間で 12 人が予備校プロジェクトを受講後、大学に入学している。
- ・現在では、環境保護のための起業家プロジェクトを企画中である。連邦政府の支援機関と連携して環境保護のためのインストラクターの教育支援を行う。もともと、毎年 6 月に環境問題に関する大規模なイベントが開催され、地元の若者およそ 1000 人が参加して、パルメイラ地区の環境面に関する公共政策の研修を受けている。

(図 1) パルマス銀行敷地内の地図



16:45-18:00

マリア・ソコーホ・アルヴェス (Maria Socorro Alves) : ASMOCONP 執行委員

- ・1973 年、現在のパルメイラ地区に人々が移動してきた。この地区では、住居、保健・医療、交通、教育、上下水道などのインフラ設備が整っておらず、基本的な生活権が存在しなかったため、それらを改善するために住民たちや様々な社会運動が集まって組織化され、アスモコンピが結成された。
- ・1981 年にアスモコンピは法人格を取得し、80 年代には、初等教育・中等教育の学校、保健所、公共交通が設置された⁶。さらに、1990 年代に、Prorenda (プロヘンダ)⁷というブラジル政府とドイツ政府の共同プロジェクトを通じて、パルメイラ地区を都市化することができた。それをきっかけに、エネルギーや上下水道などが整備された
- ・インフラが整備されたことによって、地区の生活費が高騰し、それを支払えない住民たちが地域から離れてしまった。そこで「住めないところに住む」というプロジェクトが開始された。雇用や収入を創出するプロジェクトに力を入れることが必要であると考えた。
- ・パルメイラ地区には、生産者は存在したが、大手銀行が彼らに融資しなかったため、生産活動ができず、収入が増えないといった悪循環に陥っていた。そこで、1998 年にパルマス銀行の設立を決定し、銀行を通じて新しいお金を創造するという可能性を見出した。それがパルマスというお金であり、それによって、雇用や収入を創出だけでなく、地域経済を活性化することを目的として創造した。そして、職業訓練などが行われ、企業家と地域住民との統合がさらに進んだ。
- ・パルマス銀行が成長すると、他の地域にも同じようなプロジェクトが立ち上がり、それらの活動にも協力するようになった。そして、2003 年には、パルマス・インスティテュートが設立された。パルマス・インスティテュートを通じて、これまで得られた経験を他の地域とも共有している。
- ・2002 年ごろにブラジル連帯経済ネットワークの創設に関わり、加盟した。それから連帯経済に関する議論をはじめたが、その概念を知る前からいろいろな活動をしてきており、それらの活動が連帯経済であるということに気づいた。

⁶ 1964 年から 85 年までブラジルは軍政であった。

⁷ 「収入のために」の意。これに関する伯独両国政府の合意によると、農村地域での農業技術研修を基本としつつも、土木工事などが入っている。

- ・月に一度、パルマス銀行前の通りで、市場を開設し、毎週水曜日の夜にはフェコー（Fórum Socioeconômico Local：地域社会経済フォーラム）を開催し、毎月最終土曜日にパルメイラ地区の総会を開き、議論だけでなくコミュニティに対する提案も行っている（具体的には、地域の下水道の排水システムなどについて）。
- ・アスモコンピのスローガン：「世界は神様が創ったが、パルメイラ地区は私たちが創った。」
- ・ルラ政権の下で、2003年にブラジル労働雇用省連帯経済局（SENAES: Secretaria Nacional de Economia Solidária）が設置され、ブラジル連邦政府の連帯経済に対する考え方が明らかとなった。パルマス銀行はSENAESとパートナーシップを結んでいる。
- ・ルラ政権の就任によって、野党であった労働者党が与党となり、社会運動などを行っていた人々が、市役所や政府などに入り込むようになった。その結果、社会運動が分裂気味になってしまい、人々の新たな結びつきを模索している。

Q. 日本をはじめとする国々では、住居、保健・医療、交通、教育、上下水道などの生活権に関するインフラ整備は、政府が行うものであるが、ブラジルでは政府に頼らず住民が行うものであるのか。

A. よくあることである。80年代のブラジルでは、パルメイラ地区だけでなく、他の地区でも同じようにインフラ設備が整っておらず、そのため、政府に頼むのには時間がかかるので、住民たちがなんとかしなければならなかった。

Q. なぜここで連帯があったのか。そして連帯経済が可能となったのか。そこでのアスモコンピの役割とは何か。住民が初めから連帯していたのか。アスモコンピが住民の連帯の手助けをしたのか。

A. みんなが生き残らなければならない、苦しいときに助け合うことから連帯が生まれる。電気や上下水道などがなく、それらを獲得しようという共通の目的を持っている。連帯意識の形成で、いろいろな人々の助けを受けた。行政がやっているのを待っているだけではなく、住民が強く要請しないかぎり状況が変化しないことに気がついた。

Q. インフラ整備を進めていく上で、地域の銀行が必要だと思ったのはなぜか。

A. パルメイラ地区の住民たちは、金融にアクセスすることができなかった。そこで、パルマス銀行は、既存の金融システムに取り込まれなかった人々にサービスを提供し、現在では、連邦政府もコミュニティ・バンクなどの連帯金融に対する支援を行っている。これらのコミュニティ・バンクが融資する対象は、連帯企業と呼ばれる生産者協同組合を設立し、商品を作り、サービスを提供している。コミュニティ・バンクは通常の銀行の基準とは異なる。

Q. 当初、州や連邦政府や民間銀行は非協力的であったが、なぜ協力的になったのか。何かきっかけがあったのか。

A. パルメイラ地区内外における信用を獲得し、90年代にプロヘンダのプロジェクトを実施することができた。さらに、貧しかったパルメイラ地区に銀行が設立されたことで、注目を集めた。中央銀行は、パルマスがリアルを危機にさらしていると不信感を抱き、パルマス銀行を視察に訪れ、後に裁判が行われた。裁判の際、判事がコミュニティ・バンクの考え方に関心を抱いた。さらに、パルマス銀行は様々な公共政策を策定してきた。銀行を設立することで、質の高いサービスを提供することができた。

Q. 上下水道などのインフラを住民たちが自分たちで建設したと話していたが、当初は、住民全員が参加したわけではなく、パルマス銀行が設立されたことによって、参加者の輪が広がっていったのか。

A. 今年で、アスモコンピは30周年、パルマス銀行は13周年を迎える。パルマス銀行を通じて、企業家精神を強化することができ、さらに連帯経済に関する議論が強化され、連邦政府に対して、今までとは異なる銀行のあり方が可能であることを実証できた。必要性があるからそれに対処するための活動が生まれている。

Q. 連帯は非常に難しいが、ここでは、それができている。それはいかにしてできるのか。他の国でも同じようなことができるのか。

A. できると思う。お金よりも大切なのは人々である。人々の価値観が失われてしまっただけではない。お金の多寡は人々の幸福とは関係がない。豊かでも、そこに住んでいる人が不幸せなことはある。それぞれの問題をどうやって解決していくか、その過程で連帯が生まれる。ものごとの中心にあるのが人間である。そのような人々の需要を満たすことが重要である。多くの国々や人は収入や金銭的なことを中心的に考え、環境や人間に対する配慮に欠けている。環境や人間を守るために、意識づけが重要である。

Q. ここでは、生きていくために連帯しなければならないという意識が生まれてきた。日本では、そのような状況ではなく、何か起きたときに連帯が生まれるが、その後は収まってしまう。どのようにして、連帯を継続していくことができるのか。どこにどのように意識を働きかけて、連帯を生み出すのか。そのコツは何か。

A. 人々の必要性によって、人々を集めることができた。金銭的な必要以外のことで何かあるはずである。人々の需要をすくい上げる団体が必要である。そうでなければ、達成することができない。お互いの気持ちを聞かないと、連帯が生まれない。人々が必要としているもの、本当に満たされているものを見極める必要がある。

2011 年 2 月 22 日（火曜日）

10:25-11:55

ジョアナ・ペレイラ・デ・ソーザとセナ・ペレイラ・デ・ソーザナ（Joana and Senna Pereira de Souza）：スーパー商店主

- ・パルマス銀行が設立してから 11 年間、うちのお店ではパルマスを受け入れてきた。システムが進化していく中で、私たちもそれとともに進化してきた。

Q. システムが進化するとはどのようなことか。

A. パルマスが発行される前の 2, 3 年間は、貸し方・借り方を記載する用紙に毎日の取引を記録し、月末にその用紙をパルマス銀行に持って行き、清算していた。その後、単純な紙幣を発行していたが、偽札対策のための技術を施し、現在のデザインのパルマスが発行された。

- ・もともとのパルマスというお金ができたときの発想は、パルメイラ地区内でお金を流通させるということであった。パルメイラ地区内で仕事（例えば、大工、左官屋など）を依頼する場合に、支払の 50%をパルマスで、残りの 50%をリアルで支払っている。このお店では、バイク便の燃料費、メンテナンス費、光熱費や水道料金などの支払にパルマスを利用している。光熱費や水道料金は、パルマス銀行で支払いをしている。支払いの一部（50%まで）は、パルマスで支払い、残りはリアルで支払う。その他にも、市内交通のバス⁸があり、パルマスを利用することができる⁹。
- ・地域内にお金が入り、域内を流通し、お金が域外に出ていくまでに何回まわったかということが大切である。地域内で、お金がまわっているという印象を持っている。
- ・このお店は、パルメイラ地区で 2 番目に大きい。お店のパルマスでの売り上げは、月々 2 万パルマスであり、これが全体の売り上げの 5%を占めている¹⁰。
- ・ブラジルは内税として、消費税がすでに商品に加算されているため、消費者は消費税が何%であるか分らない。消費者にとっては、商品の最終価格が重要である。パルマスで支払う場合も、特に問題になることはなく、リアルと同様の扱いとなる¹¹。
- ・このお店では、パルマスを上限なく使用することができる。お店から近所の配達などを行う際にパルマスを利用するので、とりわけお店にパルマスが貯まるということはない。

⁸ コミュニティバスのようなものであろう。

⁹ パルマス銀行からパルマスとリアルで融資を受けることができる。ただし、銀行口座はリアルだけである。

¹⁰ 全体では 40 万リアル（約 2000 万円）の売り上げがある。

¹¹ 公共料金（電話代や水道代など）はパルマスでの支払いが可能だが、地方税そのものの支払いはリアルのみではないと思われる。

- ・このお店を経営するにあたり、パルマス銀行からパルマスとレアルの両方で融資を受けることができる。パルマス銀行とお店との間に信頼関係が成り立っている（事前承認を受けている）ので、銀行へ行けば、審査なしで直ちに融資枠である 1 万 5 千レアルを借りることができる。融資にあたり担保などは必要ない。
- ・このお店では、ほとんど融資は必要としない。できる限り金利を支払わないようにするために、なるべく自己資金で賄うようにしている。従業員でパルマス銀行から融資を受けている人はいるかもしれないが 1 人程度だろう。
- ・パルマス銀行の融資に関する審査は次のように行われる。
銀行の融資担当者が、融資を必要とする人の隣の家に行き、「隣の人がお金を借りたがっているが、あなたなら彼/彼女にお金を貸しますか」という質問を行う。「貸します」という回答が得られれば、銀行から融資が行われる。融資するにあたり、担保や連帯保証人などは必要ない。個人に対する信頼に基づいて、融資を行っている。わざわざ、その関係を壊そうとする人はおらず、もし悪評などが立つと銀行が借金を取り立てに行く。
- ・パルマス銀行の融資における利率は月 0.5%であり、商業銀行の場合は月 4~5%、公定歩合は年率 6~7%である¹²。特別な小切手の場合は、月 10%である。
- ・パルマスの導入によって、このお店の客が増えた（セナ）。パルマスで商品を購入する客は、レアルでも消費を購入してくれるのでお店全体としての売り上げも増える（ジョアナ）。パルマスを保有する客はパルメイラ地区内で買い物をする。地区内での競争はたいしたものではない。なぜなら、店ごとに得意分野があり、それぞれがチラシなどで宣伝しているからである。このお店は、日用品や化粧品などが中心である。Uni rede グループという協同組合（14 店舗）に加盟しており、いろいろな地区にお店があり、チラシやクレジットカードも発行している。
- ・このお店は、家族経営で共同所有の会社であり、28 人を雇用している。従業員の給与は月 650 レアルである。希望者には、給与の一部をパルマスで支払うこともある。ただし、多くの従業員は、地域外で買い物をするため、パルマスで受け取ることはあまりない。パルマスで融資を受けている人などは、返済のためにパルマスが必要であることから、給与として受け取ることもある。
- ・「売り上げの 5%がパルマスであるなら、従業員の給与 5%をパルマスで支払うことも可能ではないか」という質問者側の提案に対しては、「それは良いアイディアであるので、従業員に話してみよう」と賛同してくれた。

¹² パルマス銀行では、生産、貿易、サービス部門における金利は、ローンの金額に応じて異なり、0.5%~3%となる（<http://www.bancopalmas.org.br/oktiva.net/1235/nota/12294>）。

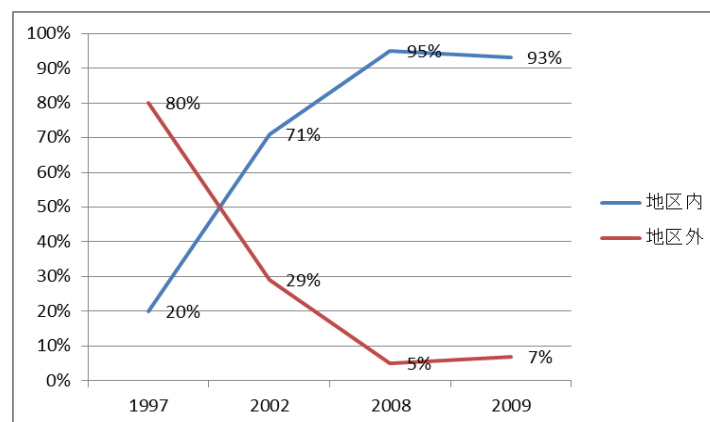
- ・ パルマス銀行が実施する若者たちの雇用プロジェクトで研修を受けた人々が、3 ヶ月間このお店で研修生として働いている（現在は受け入れていないが）。研修生にはパルマス銀行から月 50 レアル分（20 パルマスと 30 レアル）の給与が支給されている。
- ・ パルマスは、お店の品物を配達するための車（1 台）やバイク（3 台）の燃料費に最も利用する。また、お店の仕入れ（パルマ・リンピで製造した洗剤）などにもパルマスを利用している。
- ・ パルマス自体は、レアルに換金することができるが、このお店ではパルマスを換金することはない。すべて使ってしまう。むしろ足りないぐらいである。以前は、パルマスを利用できるお店が限られていたために、換金することしかできなかったが、現在では利用範囲も拡大し、換金する必要がなくなった。
- ・ パルマスを受け入れることで、私たちが地域を支えているという意識がある。地域が成長すれば、私たちも成長する。パルマスを受け入れることで、デメリットは全くない。パルメイラ地区は可処分所得が少ない地区であり、マイクロ・クレジットを受けることで、商売の基盤が生み出された。
- ・ 仕事や勉強をしない若者がパルマス銀行と関わるようになり、研修を受けて就職することで、ギャングなどに入らないようになる。そのような意味では治安が良くなっている。海外からパルマス銀行を訪れる人々が寄付をすることによって、医療の改善などが行われている。

14:00-15:40

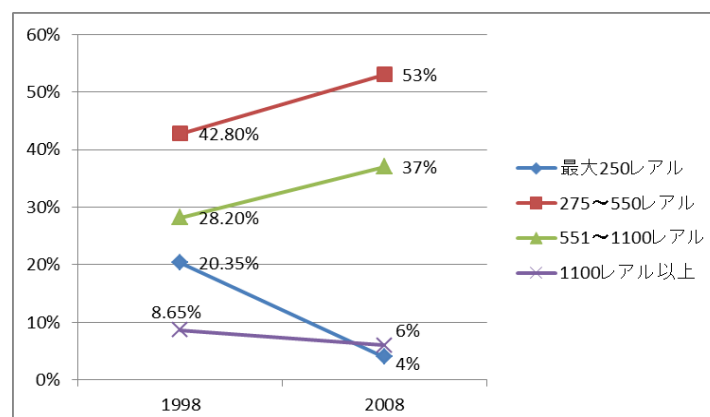
ジョアン・ジョアキン・メロ (João Joaquim de Melo) : パルマス銀行創設者

- ・質問者側は「お金の多様性がシステム・制度の安定性に重要である」という仮説を持っていること、多様なお金のあり方が、文化・経済などの持続可能性によって重要であると考えており、そのことを証明したいと思っていることを説明した。
- ・はじめに明らかにしなければならないのは、何のために社会的通貨を創るのかということである。パルマス銀行の場合は明確で、地域発展のためである。それは、生産や消費、社会運動などいろいろな活動を結びつける役割を果たし、一連のアクションの文脈の中で発展した。
- ・パルマス銀行が設立される以前の1997年には、地区内で買い物をする人が20%、地区外で買い物をする人が80%であった。そこで、社会的通貨を用いて、地区内で買い物する人を増やそうとした。地産地消を促進した結果として、2009年には地区内で買い物をする人は93%に増大した。さらに、収入の割合の変化を見ると、10年間の間に、低所得層が減少し、中所得層が増加した。こうして、地産地消を進めたことにより地域経済は発展した(図2, 3参照。ただし、インタビュー中に示されたスライドのグラフと同じものを著者らが再構成した)。

(図2) どこで買い物をするのか (パルメイラ地区の住民)



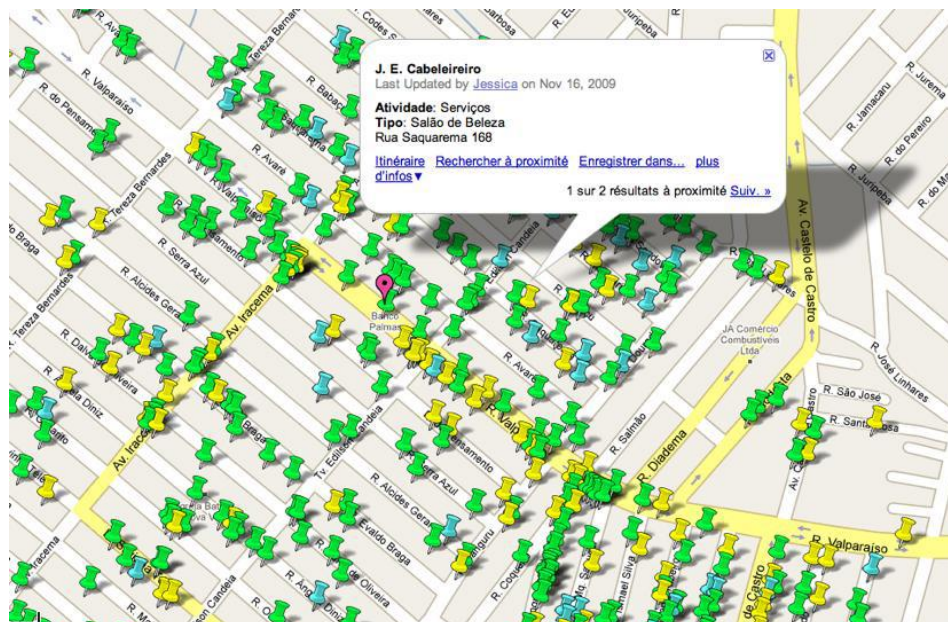
(図3) 「地区の住民における収入の割合の変化」



Q. どのような調査を行っているのか。

A. 2年ごとに地産地消マップというものを作成し、どこにどのような商店があるのかをマッピングし、どのような商品があるかという調査を行い、統計をとっている。そして、地域の需要にあわせた生産に対して、銀行が融資することによって支援している（図4参照）。

（図4）パルメイラ地区における業種のマッピング



緑：床屋、車の修理などのサービス，黄：商店やレストランなど，青：工場

- ・住民だれもが地域内で買い物をするような状況になり、地域通貨の役割にさらに意味があるのか、使命を果たしてしまったのか、という時期にきている。地域通貨が補完的な役割をずっと果たし続けるものなのか、それとも一時的なものであり、使命を果たしたら必要なくなってしまうのか、について私たちは議論している。
- ・地域通貨の経済的な意味はなくなってしまったかもしれないが、シンボリックな意味はあるだろう。シンボリックな意味としては、NPOの人々に給与を支払ったり、地域通貨の博物館を作ったり、かつて地域通貨を用いて地域経済を発展させたことを子供たちに伝えたり、といったことがあるかもしれないが、結局のところ、シンボリックな意味とは何かということを今考えている。

Q. 収入の割合の変化に関するグラフがあったが、低所得層が減少し、中所得層が増加するということで、当初の目的は達成されたと考えるか。

A. 元々の地域内の消費を増やすという目的は達成されたが、今は地域通貨が永続的に必要なものであるかどうかを考えている。

Q. パルマスがなくなっても地産地消が続くと考えているか。

A. それは、大きな疑問である、私たちは考えている。

- Q. 先進国のように人々の所得が増加し、電化製品や車などを欲しがるとなると、地産地消にはならず、地域内消費の割合が減少すると思うが、そのことをどう考えるのか。
- A. 電化製品などをブラジル国内や地域で製造することができるかどうか、ということが問題であり、所得が増えたからといって、すぐさま流出につながるわけではない。
- Q. 経済が発展していくと、第一次産業（農業）から第二次産業（機械・製造業）、そして第三次産業（情報・サービス）へと重点が移っていく。第二次産業の地産地消は無理だが、第一次と第三次産業の地産地消は可能であり、ポスト産業化の時代になると、トフラーの言う「プロシューマー（生費者）」のようなことができるのではないかと。
- A. 私たちにとっては、経済発展によって外国資本などを通じて他所から工業を作ってもらのではなく、地域のネットワークを使って自分たちのイニシアティブにより産業を興していくことが大切である。
- Q. 地域内消費が 100% 近くに到達し、パルマスはシンボルなのではないかという議論であったが、例えば、教育や医療などのサービスが日本では重要であり、そのようなものは地産地消になるのではないかと。
- A. 経済は常にハイブリッド化する必要があり、地産地消の地域通貨も必要だが、よその技術などを地域に持ってくるための法定通貨も必要である。
- ・なぜパルマス銀行が上手くいったのか、パルマス銀行の歴史、パルメイラ地区の発展に関する説明（図 5 参照）。

（図 5）パルメイラ地区の位置



【パルメイラ地区の歴史】（以下はパルマス銀行内に掲示された写真）

- ・ 70 年代はスラム街であった。
- ・ 80 年代に家を造り始めた。



- ・ 90 年代にはもやいの精神があり，下水道の整備などが行われた。



- ・ 90 年代末には，インフラ整備が進んだことにより，インフラの維持を支払えない人々がパルメイラ地区を離れなければならなかった。



- ・この時、「インフラ整備などが進んだにもかかわらず、私たちはなぜ貧しいままなのか」という疑問にぶつかり、それは「お金がないから」であると考えた。そこで、最初の生産と消費に関するマッピングを行うと、80%の人々が地域の外で買い物をしていることが分かった。つまり、私たちは貧しいのではなくて、お金が外へ出て行くことで貧しくなってしまったのである。

- ・コミュニティ・バンクは連帯金融サービスのことであり、コミュニティの連合体としての性格を持ち、地元経済の再組織に向け、雇用と収入、そして連帯経済を見通して行われるものである。

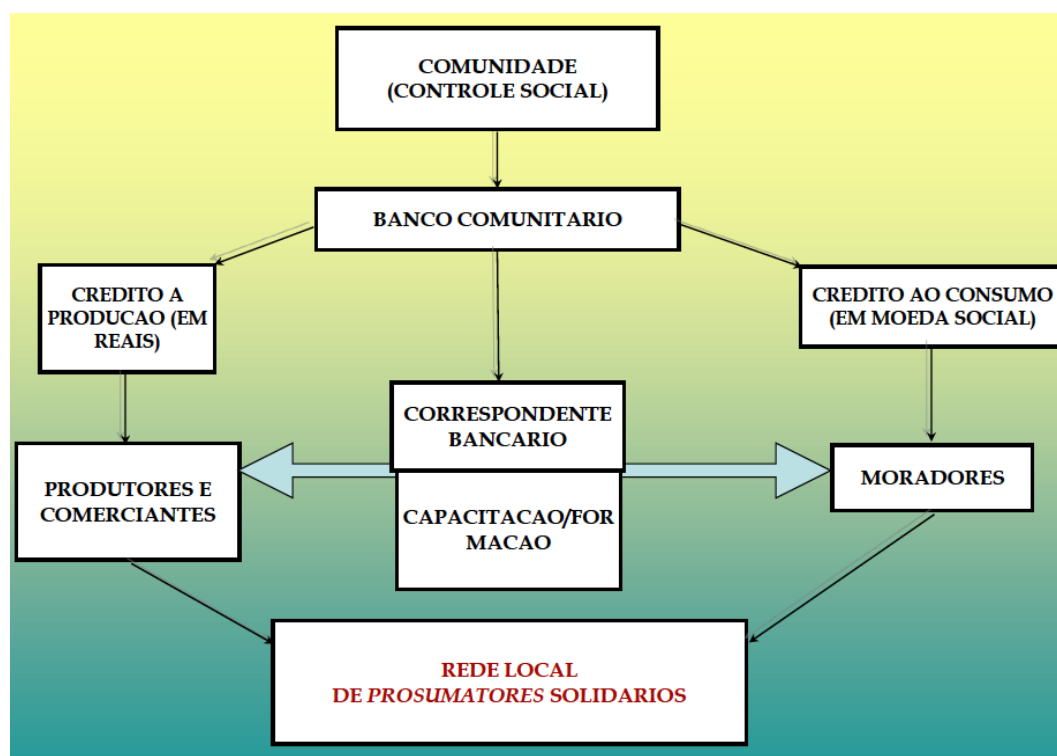
- ・「私たちはなぜ貧しいのか」

【中心的な主題】

1. 経済的に貧しい地区はない。
2. 内部の蓄えをたくさん失う地域があり、そこが貧しくなる。
3. 地域がどんなに貧しくなっても、地域は経済発展の主体である。

- ・パルマス銀行は、プロスマトール (prosumatores) という新しい概念を提起している。プロスマトールとは、生産者 (producer) かつ消費者 (consumer) であり、社会的運動家 (social actor, social player) でもある人々のことである。ここで重要なのは、地元の生産と消費を均衡させることであり、その一環として地域通貨を導入している (図 6 参照)。

(図 6) 連帯的プロスマトール Prosumatores Solidarios の地域ネットワーク



Q. なぜここでプロスマートールという言葉を用いているのか。その意味は。

A. 地域が発展するためには、4つの要素が重要である。

- 1) 社会資本 (social capital) : 地域の人々が集まりローカル・フォーラムを開く。
- 2) 人的資本 (human capital) : 事業を興すのに必要な教育と市民意識や環境保護意識。
- 3) 環境資本 (environmental capital) : 環境保護。
- 4) 連帯経済 (solidarity economy)

コミュニティ・バンクはこれら4つの要素を融合したものであり、単に地産地消をすればよいということではない。社会の改善のために自分たちが主体的に動くという意識も含めて、社会的活動家が必要である。

- ・ 経済成長 (Economic growth) と経済発展 (Economic development) とが時々混同されてしまうが、私たちは経済成長のようにただお金を稼げばよいというのではなく、人間の質の向上や環境保護を考えるといった本当の意味での「発展」を求めている。



左側：生産者融資，右側：消費者融資，下側：収入発生，真ん中：生費者の地域ネットワーク

- ・ 一連の循環を通じて、プロシューマーの地域ネットワークができる (図7 参照)。
- ・ 地元での消費だけを推進しても、モノが生産されなければ意味はなく、生産者に対しても融資が必要となる。そこで、レアルとパルマスを必要に応じて使い分けて融資を行い、地域発展を促すことが大事である。さらに、パルメイラ地区にはどのような産業があり、どのような商品を販売しているかをマッピングし、同業他社を調整している (図4 参照)。

Q. 単に地域通貨を導入すればよいということではなく、生産者や消費者そのものを新しいものへと変革しなければならないということか。日本では、地域通貨を導入しても生産者や消費者の意識は変わらないが、それでは上手くいかないのか。

A. 確かに。地域通貨を導入すればすべてのことが解決するということではなく、社会的な事柄などもきちんと考えなければならない。

Q. 地産地消を軸に生産者と消費者が結びつきを意識したり、地域内で生産者が生産し、消費者が消費するということを思ったり、考えたりするだけでなく、活動そのものが変わるということか。

A. はい。毎月いくらかの金額が地域の外に出ているが、その中でどれだけ地産地消できる可能性があるか。それ以上の金額の地域通貨を発行しても意味がない。インフレが起こってしまう。

- ・ パルマス銀行では、公共的な銀行とパートナーシップを組み、サービスの拡大を行っている。例えば、公共料金の支払いにパルマスを利用することができる。また、年金や Bolsa Família による貧困家庭向けの給付などにも利用されている。

- ・ マイクロ保険

掛け金を年間 35 レアル支払い、死亡保険として 3000 レアルが給付される。対象者はパルマス地区だけでなく、ブラジル全土におよそ 10 万件売りたいと考えている。

- ・ パルメイラ地区には、人口およそ 32,000 人、5000 家族が暮らしている。

- ・ パルマス銀行の融資について

2010 年は総貸出額がおよそ 73 万レアルである。

パルマス銀行では 1) 事業の将来性、2) 借主の信頼に基づき融資を行っている。

Q. パルマス銀行の監督部局はどこになるのか。準備金はどうなっているのか。

A. 以前は、公式には活動が認められていなかったが、2004 年ルラ政権の時にマイクロ・クレジット全国計画 (plano nacional de microcréditos)¹³ が創設され、NGO が法務省や労働省の認可を受けて銀行として活動できるようになった。ただし、すべての銀行業務ができるということではなく、パルマス銀行では、預金口座や年金口座などを開設することはできない。そこで、連帯経済ネットワークでは、そのような状況を改善し、コミュニティ・バンクの権限を強化するような法律を制定しようとしている。

- ・ ブラジルでは、人口の約半分の人々が銀行口座を持っておらず、金融的疎外に苦しんでいる人々がたくさんいる。口座開設費と口座維持費を支払えない人々が公共料金を支払いやすくするために、パルマス銀行が支援している。具体的には、電力会社などが送付した請求書をパルマス銀行に持っていくとパルマスもしくはレアルで支払うことができるようにし、逆に、年金や子育て手当などを受け取れるようにもしている。なぜなら、そのために中心市街地に行くと時間や費用がかかってしまうし、さらに、中心市街地でお金を使われてしまうと地元にお金が落ちないからである。

¹³ 労働雇用省が生産活動に対して融資を行うことを目的とするプログラムである。

- ・ パルマス銀行の監督機関は法務省であり、年次報告書などを提出している。本来は、銀行の監督は中央銀行の役割であるが、コミュニティ・バンクの場合は、中央銀行が法務省に委託して監督している。なぜなら、法務省が NPO や NGO の監督を行っているからである。
- ・ 準備金は、商業銀行であるブラジル銀行から 15% を要求されている。政府から直接借りることができるならば、もっと緩和することができるかもしれない。

Q. 融資の返済率や焦げ付き率はどうなっているのか。

A. 生産者向け融資のうち、2 から 2.5% が焦げ付いている。他の銀行とは異なり、低い利率で貸し付けていることもあって、焦げ付きにくい。Bolsa Família の階層の焦げ付き率が一番大きい。47,000 パルマスが消費者向けに融資されるが、その内 0.5% 未満が焦げ付いている。

Q. マイクロ・ファイナンスで有名なものとして、グラミン銀行があるが、パルマス銀行はそれを参考にしているのか。

A. 97 年頃、ブラジルでは、グラミン銀行が知られておらず、全く独立にはじめた。グラミン銀行は生産活動向けの融資だけであり、消費活動向けの融資がない。そのため、生産と消費のバランスがとれていない。地域の市場規模を知ったうえで、それに見合った適切な生産活動を行う必要があり、そのためにマッピングを行っている。さらに、技術とイノベーションが大事である。最貧層から脱出することはできたが、付加価値のある商品を地域でどのように生産するかが次の課題である。専門技術を地域に持ってくるためには、リアルが必要となる。

2011 年 2 月 23 日（水曜日）

9:30-10:45

ドナ・ダルシリア（Dona Darcília）：パルマ・ファッションのコーディネーター

Q. このプロジェクトでは何人が働いており、どのような活動を行っているのか。

A. 現在、このプロジェクトでは 10 名（8 名が女性：20 代から 40 代，2 名が男性：20 代）の人が働いている。彼ら/彼女らは、ここでの収入によって生活をしている。ここでの最低賃金は月に 540 レアルであり、その額は保証されている。従業員の給与はレアルで支払われる。ここでは週に 400～500 枚の衣服を作り、パルマス・ショップや他の小売店（フォルタレザの中心街）で販売している。また、隣の研修用施設で作ったものも、パルマス・ショップで販売している。

- ・このプロジェクトでは、必要なときにパルマス銀行から、月 100～150 パルマスをつなぎ融資のような形で受けることがある。
- ・ここにあるミシンは、プロジェクトを通じて入手した。また、それとは別に最もよい社会的事業を行う団体が賞金を受け取るコンクール（ブラジル銀行財団主催）に応募して 10 万レアルを獲得し、新品のミシン 1 台 1,300～7,000 レアルのものを、作業所で 21 台、研修所でおおよそ 20 台揃えた。
- ・パルマ・ファッションのプロジェクトは 1999 年から開始され、最初は原材料を購入するためにパルマス銀行から融資を受け、さらにブラジル連邦政府のソーシャルアクションプログラムを通じて、機械を何台か支給された¹⁴。布や糸などの原材料は地域外からレアルで購入されているが、今後パルメイラ地区で原材料が入手可能となった場合、パルマスで購入することもありうる。
- ・ダルシリアが自らジーンズなどのデザインや型紙を切る作業を行っている。元々、祖母たちの世代は自分たちで服を縫っており、自分の家族も裁縫などを行っていたので、その姿や昔の技術を思い出して、ここで衣服を作るようになった。ここへは、裁縫好きだったことから自ら望んで働きに来た。
- ・最初は、上着を作っていたがあまり売れず、むしろジーンズの方が売れたことからそちらに特化した。ジーンズは、フォルタレザの中心街だけでなく、そこから他の州にまで販売網が拡大している。どの年代（若者から年配の方々まで）の人々にも売れる。

¹⁴ 時系列的には、ブラジル連邦政府から支給されたものが最初で、コンクールで受賞したのがその後になる。

- ・ もともと、このプロジェクトは、域内の雇用創出のために仕事を作り、地域の持続可能性を高めるために始めた。きちんとしたジーンズを作ることのできる熟練工が足りないこともあり、裁縫部門では、週に 2 回の研修を行っている。また、このプロジェクトは、協同組合方式で運営されていて、従業員は皆、経営状態を知っており、利益も平等に分配され、特別損失なども平等に負担する。また、従業員が共同で出資も行っている。
- ・ コーディネーターであるダルシリアは、パルマ・ファッションと企業（小売店、問屋など）との橋渡しをする。小売店による直売と問屋に卸すのでは利益率が異なるが、直売は利益率が良い。基本的にほとんどは直売であり、利益は問屋に卸すと 3 レアルだが、直売だと 25 レアルになる。
- ・ パルマ・ファッション・ブランドの直売所をフォルタレザの中心街に設立したいと考えている（パルマ・ファッションのブランド服には、ブランド・マークのタグを付けている（図 8 参照））。

（図 8）パルマ・ファッションのブランド服飾用タグ



Q. このプロジェクトを進めていく中で、困ったことは何か。

A. 販売である。パルマ・ファッションのブランドがあまり知られていないため、マーケティングや宣伝活動が必要である。さらに、ブランド服の販売先のルートを確保することと販売店舗を確保することの両方でもある。現在では、月に 2,000 着程度を製造しているが、そのうちパルマ・ファッション・ブランドのものは 2 割（400 着）で、それ以外は OEM として、外部のブランドなどから委託を受けて製造している。

Q. このプロジェクトを進めていく中で、良かったことは何か。

A. ジーンズをヨーロッパで販売した時にかなり儲かった。どういったことが将来できるかを示すことができた。サンドラやジョアキンがいろいろな国の人々と交流していて、ヨーロッパへ行った際にジーンズを見せたら、そのときはよい評価を受けたが、継続しなかった。

Q. フェアトレードなどの方向性が今後あるか。

A. ヨーロッパからフェアトレード関連の視察団が来たこともあるが、具体的な販路の確保にまでは至っていない。また、サンパウロやリオデジャネイロのような大都市まで販売できていない。パルマ・ファッションの Web サイトなどを作成し、宣伝や販売をしていきたい。

Q. 品質に関して、とりわけパルマ・ファッションとして気をつけていることなどはあるか。

A. SEBRAE (Serviço Brasileiro de Apoio às Micro e Pequenas Empresas, 中小企業支援庁)¹⁵から技術支援を受けている。大学の先生からも技術支援を受けている。

- ・パルマ・ファッション・ブランドでもっと販売をしていきたい。そのためのブランドの売りとなるのが、連帯に基づいた労働である。つまり、ここは協同組合として労働の品質が確保されており、全員が企業主という発想で運営されている。その点で、普通の工場のように、工場主を儲けさせ、搾取されるのとは異なる。
- ・協同組合なので、合議や意志決定が難しいこともあるが、解決できないような問題に直面したことはない。ブラジルの労働法では、20 人以上の人が集まらないと、協同組合としての法人格を取得できない。現在のパルマ・ファッションは、システムとしては協同組合だが、法律적으로는協同組合ではない。

¹⁵ SEBRAE については <http://www.sebrae.com.br/>を参照。

12:00-13:15

クレシアーネ・カアヴァルカンテ (Gleciane Cavalcante) : パルマ・トゥール担当

Q. パルマ・トゥールのプロジェクトは、どのようなきっかけで始めたのか。

A. パルマス銀行を設立して以来、女性たちが仕事を求めて訪れたが、働ける見込みがない人が多かったので、自分たちで仕事を作る場所として、女性インキュベータというプロジェクトを始めた。現在、このプロジェクトが始まってから 10 年が経過している。

- ・ パルマス・インスティテュートが各プロジェクトに対して一定期間の支援を行った。
- ・ 最初は女性や若者の雇用などを支援することが目的であった。パルマ・ファッションもそのひとつである。

Q. パルマ・トゥールはいつ始まったのか。

A. 2010 年 2 月 22 日に開設された。パルマス銀行が有名になると視察が増えて、この地区に宿泊施設がないことが問題になり、宿泊施設を作ろうという話になった。

Q. 宿泊施設はパルマス銀行の所有物か、リースしているものなのか。

A. もともと、パルマス銀行が所有していた土地に、施設を建てた。それは、ウォルマート財団の寄付によるものである。

- ・ 宿泊施設は、6 つの部屋で 10 名の宿泊が可能である。施設の従業員は 20 名で、雇用契約を結んでおり、給料が支払われている。2 名が専属のスタッフ（クレシアーネがコーディネーターとしてガイドを行い、もう 1 名のドナ・ジルマは清掃などハウスキープの仕事をしている）で、その他 18 名は他のプロジェクトや仕事を掛け持ちしながら手伝いをしている。

Q. クレシアーネは、パルマ・トゥールで生計を立てているのか。

A. パルマ・トゥールは、定期的な収入が見込めるわけではないので、入ってきた収入をみんなで分ける¹⁶。彼女はバイア州の企業に金融アナリストとして雇われてそちらでも仕事をしている。さらに、パルマス銀行でも融資関係の仕事をしており、こちらの方が忙しい。

Q. パルマス銀行からの給与はパルマスでもらうことはあるのか。

A. パルマス銀行から給与が支払われた時点ではレアルであるが、その後にパルマスに交換することが推奨されている。彼女自身も 50% をパルマスに交換し、同居している家族が利用する日用品などを購入している。

¹⁶ 基本的には、宿泊客が支払った料金を、各人の業務量に応じて均等に分担する。

Q. パルメイラ地区では、女性を支援するようなプロジェクトはあるのか。

A. 母親支援のプロジェクトがあるわけではない。あるとすれば、市の保育園がある。

Q. 宿泊施設にはどの程度のペースでお客が訪れるのか。

A. 設立してから1年なので、まだよく分からないが、宿泊客は1月から10月が比較的多かった。

実際には、4月から受け入れを開始したが、これまでに50人ほど受け入れてきた。宿泊客は、およそ1〜2週間程度の滞在であり、利用客は主に調査関係者が多く、次に親戚を訪ねて宿泊する人もいる。

Q. このプロジェクトは協同組合として経営しているのか。

A. パルマ・ファッションは協同組合であるが、パルマ・トゥールはまだ法人格を取得しておらず、どちらかというとな日本のNPOに近い組織である。パルマ・リンピは企業である。

Q. クレシアーネのパルマ・トゥールでの役割とは何か。

A. コミュニティツーリズムというネットワークがあり、そのネットワークに関わるためにそのネットワークのコーディネーターと話をしなければならない¹⁷。コミュニティツーリズムは、ビーチ以外のフォルタレザの魅力を訪れた人たちに紹介し、普通に生活している姿を見せる活動を行っている。そのネットワークには、セアラ州内で13のコミュニティが加入しており、相互訪問を行うことで、互いの歴史を知ることができる。そこで集められた情報を訪れた人々に提供し、Facebookで広告などを掲載している¹⁸。

- ・各地にコミュニティツーリズムのネットワークに属している団体が存在し、TREMEBE（イタリアの機関）、TERRAMAR（セアラ州の組織）、またフォルタレザの南東にあるIcapui（イカプイ）という町にも、その他3つの団体がある¹⁹。

- ・当初は、パルマス銀行の調査団の宿泊施設としてパルマ・トゥールを立ち上げたが、その後、コミュニティツーリズムにも関わるようになり、宿泊するところがない人たちを泊まれるようにするといった新たな目的ができた。

- ・イタリアの団体が主催で9月にコミュニティツーリズムの可能性について考える会議があったが、現在もまだいろいろと考えている段階である。

¹⁷ ブラジルの場合、黒人コミュニティや先住民コミュニティなど、特徴的な文化を持つコミュニティがあることから、このようなコミュニティを訪問する観光を「コミュニティツーリズム」と呼ぶ。

¹⁸ パルマ・トゥールのサイトは <http://www.facebook.com/pages/PalmaTur/140443475976802> を参照。

¹⁹ TREMEBEやTERRAMAR、などコミュニティツーリズムに属している団体の詳細な情報は、今回のインタビューからは明らかにされていない。

Q. なぜクレシアーネは、パルマス銀行やこのパルマ・トゥールに関わるようになったのか。

A. パルマス銀行が何か新たなプロジェクトを始める時には、パルメイラ地区の住民たち皆にアナウンスされる。プロジェクトに参加するには、申込をして試験を受ける必要がある。2009年にパルマ・トゥールのプロジェクトが持ち上がり、参加者を募ったところ600名の応募があった。一次試験で75名に絞り、そのうち若者25名は職業学校のプロジェクトに回し、残りの50名については、連帯経済のレクチャーを3日間受講させた後、作文選考を行い、25名が残った。そのうち、5名が辞めたため、現在は20名である。

Q. クレシアーネはなぜこのプロジェクトをやろうと思ったのか。

A. 午前中の時間は空いていたので、何かをしようと思い、参加した。いろんなコースのパッケージがあって、その中から小売とツーリズムのコースを受講した（スペイン語のコースも少し）。

- ・プロジェクトでは一般公募で参加者を募るが、インキュベータには様々なコースがパッケージとして用意されており、トレーニングによって参加者に特定分野の能力を身につけさせることを目的としている²⁰。ツーリズムに関する勉強、会計に関する勉強など様々なコースがある。
- ・もともと、インキュベータとしてパルマ・トゥールの立ち上げに関わり、連帯経済やコミュニティ・バンクに関する勉強を行ったことで、パルマス銀行の融資などの仕事も始めるようになった。それだけでは生活できないので、つい最近バイア州での仕事を始めた。元々は、別の仕事をしていた。
- ・事業を始めるのは、お金の興味からではない。パルメイラ地区には素晴らしい歴史があり、この地区を改善するために祖父たちが闘ってきた。一番の参加のモチベーションは、所得ということよりも、この地区に貢献し、連帯経済に参加したいという気持ちである。住民運動や社会的闘争の歴史やパルマス銀行などの実践を紹介したい。
- ・パルマ・トゥールの平均給与は300リアル/月、金融アナリストの給与は240リアル/月である。

²⁰ プロジェクトは、パルマ・ファッション、パルマ・トゥールなど、具体的な起業のことを指す。それに対して、コースは、小売や会計などの能力を養成することであり、インキュベータは、コースをいくつかのパッケージとして提供することである（例えば、出納係の仕事や観光、協同組合主義など）。

15:00-16:15

アリ・セレオ・レージェス・メンデス博士 (Dr. Ari Celio Reges Mendes) :

セアラ州政府労働社会開発局労働収入推進課長ほか 2 名

Q. パルマス銀行の活動をどのように捉えているのか。どのような支援を行っているのか。

A. この部局は、労働と社会発展に関する仕事を行っている。主に 3 つの軸があり、それは 1) 雇用・労働、2) 社会支援、3) 食糧・栄養の安全、である。

- ・ 1) 雇用・労働では、労働市場への参入、職業訓練、企業家精神についての政策がある。ブラジル連邦政府の中に SNE (Sistema Nacional do Emprego : 国立雇用システム) があり、その関連で対応ネットワーク (Rede de atendimento) ²¹を構築している。対応ネットワークは、セアラ州内に 60 カ所あるハローワークのネットワークであり、求職中の人々が自ら保有する資格等の情報をデータベース化し、企業とのマッチングを行ったり、失業保険の手続きを行ったりしている。
- ・ 2) の社会支援は、企業家支援や連帯経済に関する政策がある。連帯経済は、セアラ州では、まだまだ新しい考え方である。ブラジル全土では、15 年ぐらい前からこのような考え方があるが、セアラ州ではパルマス銀行のような素晴らしい事例があるものの、ほとんどそのような活動は行われていない。ただし、企業家に対して融資を行うようなシステムは出来はじめています。
- ・ ドイツの NGO で GTZ (Deutsche Gesellschaft für Technische Zusammenarbeit : ドイツ技術協力協会) ²²などが中小企業や連帯経済と関わっていたが、その中でパルマス・インスティテュートのような取り組みが出てきて、他国でもコミュニティ・バンクの事例があることを知った。
- ・ PROENDA (プロヘンダ) は、マイクロ・ファイナンスを活用した企業家支援のプロジェクトであり、1990 年代に創設された。ブラジル ABC (海外協力の機関) とドイツ GTZ の協力により、プロヘンダのプロジェクトが開発された。このときは零細企業や農村支援を行っていたが、あまりふるわず終了した。このプロジェクトが終了した後に、パルマス銀行が設立された。
- ・ 2008 年以前には、パルマス銀行は自己資金あるいは州政府以外からの支援を得て活動を行っていた。当時、州政府は支援こそしていなかったが、その重要性は認識していたので、パルマス銀行の事例を州内の他地域に広げる形での公的支援を 2008 年に開始した。

²¹ セアラ州各地にあるハローワークのネットワークのことである。

²² <http://www.gtz.de/en/index2.htm>。2011 年 1 月 1 日より GIZ に統合された。これは日本の JICA (Japan International Cooperation Agency : 国際協力機構) に相当する NGO 機関である。

Q. パルマス銀行やコミュニティ・バンクの活動に対して、(日本の地域通貨のように) 経済的な支援を行っているのか、法律的な規制緩和を行っているのか。

A. セアラ州内にコミュニティ・バンクを 40 行つくる計画があったが、この計画は複数の段階に分割された。最初の 10 行の設立は、パルマス・インスティテュートに資金を提供した上で依頼し、次の 10 行の設立は、パジュー・インスティテュートに資金を提供した上で依頼した。その後、コミュニティ・バンク側に経験が蓄積されてきたため、州政府としては各地域に直接資金を提供した上で、コミュニティ・バンクのネットワークに設立のノウハウ提供を依頼した²³。

Q. 政府の政策は、失業者の救済や不況を好況にするなどある状況に対応することであり、新しいシステムや制度を作ることを支援するということではなかったが、この事例では、新しい制度を作ることを政府が積極的に支援しているということではどうか。

A. コミュニティ・バンクとは何かを理解しなければならない。コミュニティ・バンクは銀行法上にある銀行とは異なり、銀行の規制当局(中央銀行)に登録されているような銀行ではない。コミュニティ・バンクは、地域レベルで支援やサービスを行う地域のアソシエーション(日本の NPO に相当)である²⁴。

・また、コミュニティ・バンクは商業銀行などとは異なっている。このような銀行は、現在、セアラ州のみならずブラジル全土で発展しており、パルマス銀行の成功を受けて、州内の他の地域でもこの経験や技術の移転などを行っている。具体化してシステムが成長していくと、公式の銀行(具体的には、ブラジル銀行)とパートナーシップを持つ必要が出てきた。今まで金融システムにアクセスできなかった貧しい地域に銀行を設立するようになった。パルマスは非常に狭い地域で流通しているが、基本的にはレアルの担保がある。

・パルマス銀行側から州知事に対して、コミュニティ・バンクを新たに設立するという提案を受けて、州政府からの支援が行われている。現在進行中のものが 11 行あり、6 月末までに 10 行、さらに 12 月末までに 10 行を設立する予定である。州政府は、住民の収入が増えるなどコミュニティにとっての成功が見られるため支援をしている。

・セアラ州内陸部の地域経済をさらに活性化するために、コミュニティ・バンクの手法を普及させる計画がある。この計画では、パルマス銀行のモデルを通じて、販売、能力開発など様々なシステムを統合し、実施する。その背景には、農村部ではお金が域外へ流出してしまうことから、これを食い止め、地域経済を活性化させるための道具として地域通貨が必要となる。

²³ パルマス・インスティテュートからパジュー・インスティテュートへ支援先が移行したのは、類似のコミュニティ銀行が支援できるまでに、パジュー銀行(Banco Paju : <http://bancopaju.blogspot.com>)が成長したからである。パジュー銀行も住民のイニシアティブから生まれた。セアラ州マラカナウ(Maracanaú)市(パルメイラ地区より南西)にあるコミュニティ・バンクで、パルマス・インスティテュートの支援を受けて発足したが、今では自立している。

²⁴ 商業銀行の場合、中央銀行などの管轄を受けるが、コミュニティ・バンクは NPO と同様の機関である以上、法務省の管轄となる。

Q. パルマス銀行に対する具体的な支援とは何か。

セアラ州政府：資金を提供→能力開発やコンサルタントに 6 割，貸出資金（基金）に 4 割

ブラジル銀行：コンピューターシステムの提供

フォルタレザ市役所：資金を提供

- ・セアラ州では、コミュニティ・バンクに対しての法的な支援を行っていない。そのような支援は、連邦政府，とりわけ財務省や中央銀行などが行うため，州政府では特に行っていない。連邦政府では，コミュニティ・バンクやそれ以外に対してどのような支援があり得るかを議論している段階で合意ができていないため，まだ動いていない。

Q. 労働社会開発局では，内陸部の経済発展に向けてどのような取り組みが行われているのか。

A. FECOP（貧困撲滅基金）²⁵により内陸部の貧困層の支援が行われている。

対象者の 8 割はフォルタレザ地区の外で，本当に貧しい人々がいる。

フォルタレザでは沿岸部が発展しているが内陸部には依然として貧困が存在する。

内陸部には水も手に入らない地域も存在し，工業化を進める必要がある。

労働者の 45%が非正規労働者であり，労働者としての権利が守られていない²⁶。

Q. FECOP はコミュニティ・バンクに対して資金を提供しているのか。

A. パルマス銀行と州政府との間に契約があり，法人格を持ったパルマス・インスティテュートに対して州政府から資金を提供する²⁷。

Q. FECOP にはいくらの資金が有り，それは州全体の予算のどのくらいの割合か。

A. セアラ州では，食糧などを購入すると 2%の消費税が課され，年間 2 億レアルの税収が入り，これは目的税として全て貧困撲滅基金として利用される。そのうち，コミュニティ・バンクには総額 190 万レアル，1 行あたり 8 万レアルが支援されている。

- ・現在，セアラ州内には 28 の銀行があり，そのうち FECOP がすでに支援を行っているのが 10 行，さらに 10 行を支援する予定。セアラ州政府としての最終目的は 40 行の設立を支援することである。ただ，セアラ州内にあるコミュニティ・バンクの中には州政府の支援なしで設立させているところもある。
- ・また，新たに創設するすべての銀行（コミュニティ・バンク）で地域通貨を導入する。

²⁵ 貧困撲滅のために生活条件の改善を行う。公式サイトは <http://fecop.seplag.ce.gov.br/> 参照。

²⁶ 労働保護法の対象外であるという意味であろう。

²⁷ 州政府の予算で FECOP という基金を創設し，FECOP の資金という形で州政府の予算から，法人格を持ったパルマス・インスティテュートに対して資金提供を行っている。

18:00-19:15

ジバニルソン・オランダ (Givanilson Holanda) : パルマス銀行融資担当

Q. パルマス銀行でどのような仕事をしているのか。具体的にはどのようなことをしているのか。

A. 私は信用アナリストであり、地域通貨で融資を依頼した人、あるいは法定通貨で融資を依頼した企業を訪ねて回っている。

＜パルマス銀行の融資の方法について＞

パルマス銀行は、コミュニティ・バンクなので、融資の申請者をよく知っている隣近所の声を大切にする。

例えば、融資の申請者の隣人に「あなたならこの人に 1000 レアル貸しますか」と聞く。もしその人が「う～ん、分からない」と答えたとすると、融資しない方がよいかと思う。もしその人が「あいつにだったら貸すよ」と言った場合、その人の言葉を信じて融資する。貸付が焦げ付いた場合には、融資の申請者のみならずその隣人宅にも寄って、隣人が焦げ付いた融資を取り立てるよう急かす。隣人が貸さないと答えた場合、また別の隣の人に会いに行く。

たとえ話

ジョアン（融資申請者）がお金を返さなかったとき、銀行の人はカルロス（ジョアンの隣人）のところに行き、ジョアンがお金を返してくれないことについて話すと、ジョアンの隣人が恥をかき、評判を落とすことになる。

ジョアンはカルロスが信用してくれたおかげで融資を受けられたことを知らない。結果として、カルロスのジョアンに対する評価が間違っていたということになる。ジョアンが返さないということがカルロスを傷つけることになるとは考えない²⁸。

ブラジルでは、ツケで買い物をする習慣がある。例えば、ジョアンがツケで買い物する場合に、ジョアンを知っている他の人に「ジョアンが信用できるかどうか」を聞く習慣がある。その方法を融資にも応用している。

Q. 商業銀行の場合にも同じような方法で融資が行われているのか。

A. 商業銀行の場合には、電話をかける。

²⁸ ジョアンは自分が返さないことがカルロスの信頼を損ねるということに気づかないであろう。要するに、自分の情報が正しいか、間違っているかということだけが重要であり、間違っていたと指摘されることで恥をかくから、できるだけ正しい情報を伝えるようにする。ジョアン（融資の申請者）が返せなかった場合、そのジョアンの保証人となったカルロスは融資自体の連帯責任者にはならないが、恥をかくことになる。人間関係が強いパルメイラ地区において恥をかくと今後の生活に影響が出るので、できるだけ恥をかかないようにするということであろうか。

- ・融資を決定する際には、申請者の隣人一人だけでなく、四人か五人ぐらいから同じようなことを質問する。また、企業への融資の場合には、店の売り上げなども調べる。融資に関係なく、近所の人から個人的に嫌われていることもあるので、70%ネガティブな評価を受けた人でも融資する場合もある。融資は担保なしで行われる。

Q. 生産者向けと消費者向けで融資の基準に違いがあると思うがどのような点で違うのか。

A. 生産ローンは零細事業者向けで、所定の用紙に記入をすることで融資を申請。

- ・Bolsa Família の場合は、特に、用紙に記入することなどはない。高額の生産者融資向けの場合には、フォームへの記入を必要とする。Bolsa Família²⁹から融資を受けるほど貧しいか、貧しくないかというチェックをし、融資を受けた後の返済に関するフォローアップを他の人（ナイヂラ）が行っている。他の商業銀行、例えばブラジル銀行などはフォローアップを行っていない。

Q. 特に、コミュニティ・バンクとして特徴的な点はどこにあるのか。

A. ブラジル銀行の場合は、手元にあるデータだけで融資をするかどうか決めるのに対して、パルマス銀行では、家庭訪問などによって個人面談を行って融資をするかどうかを決める。

Q. 返済が上手くいっているときは良いが、返済が滞った場合にはどのような対応をしているのか。また、助けることすらできなくなった場合はどうするのか。

A. 借りた人を最大限に支援する。アルミニウムの製品を作って、販売していた人が返済に滞った時は、製品が売れるように手助けを行った。おかげで製品が売れるようになった。どうしようもない場合には、あきらめる。引当金があるのでそれでどうにかする。融資の焦げ付き率は、Bolsa Família（就学児童を抱える低所得者層向け奨学金）、Economia Popular（民衆経済）、Casa Produtiva, Empresarial（企業）のカテゴリ全体で、顧客の2%程度である。

- ・返せないほどの金額を融資して、借金漬けにするのが、パルマス銀行の目的ではないので、事業に必要な融資を行い、その後でフォローアップをする。

Q. 日本では、連帯保証人制度などが存在するが、パルマス銀行の融資ではそのようなことはあるのか。

A. 北東部銀行がグラミン銀行と類似の仕組みで融資を行っているが、そこでは五人組（誰か一人が返済不能に陥った場合、五人平等に負担）ではなく、一人のリーダーがいて、残りの3人のうちに誰かが返済不能に陥った場合に、全額リーダーが負担する。

²⁹ 貧困層向けの子育て手当制度でありルラ政権で始まった。一定の年齢以下の子どもを持つ親にお金を給付する子育て手当に近いが、生活保護の側面もあり対象家庭が貧困層に限られている。

- ・ パルマス銀行では、共同責任で融資を受ける場合もあれば、個人の責任で融資を受ける場合もある。それは、希望次第であり、必要な場合には連帯保証人制度を採用する。
- ・ ブラジルの SPC（信用保証システム）には融資者のブラックリストがある。レアルで融資する場合には、SPC のようなシステムの情報を利用するが、パルマスで融資する場合にはそのようなことはしない。企業家に対する融資と一般住民に対する融資は違う。

Q. 融資を行う場合に、最終的に決定するのはジルさん一人だけなのか。

A. 生産者に融資する場合には、融資を審査するチームが存在する。CAC（クレジット承認委員会）というチームが 4 人で構成され、フォームなどを用いて 4 人で決定している。消費者向けの融資 100 パルマス分まではジルが専決する。消費者向けの多くは、パルマスで融資される。200 パルマスを超えた融資は、ジョアキンと協議して決定する。

Q. パルマス銀行の活動に関わるようになった動機はどのようなものか。

A. パルマス銀行が設立されたことによって経済状況が改善したことや、地域通貨を始めたことなどの良い評価を聞きつけ、2004 年に 2, 3 ヶ月間ボランティア活動（インターンのようなもの）を行ったのが始まりである。社会や地域に貢献したいという思いがあって活動に参加した。当時は、文化活動（音楽スタジオのバンド活動：Bate Palmas など）を支援していた。一ヶ月間ボランティアを止めて、その後、正職員となり、給与をもらうようになった。現在はパルマス銀行からの給与で生計を立てており、もうすぐ結婚する予定。

Q. どのようにして信用アナリストをやるようになったのか。

A. 本で金融に関して勉強し、さらに経験を積んでいった。

- ・ 出身はマラニョン州のサン・ルイスで、8 歳の時に家族と一緒に、パルメイラ地区に移り住んだ。小学校 5 年生の時にジョアキンが先生だった。ジョアンとセナの店で配達の仕事をやっていた。今年の 3 月から企業経営を勉強するため私立の大学に行く。学費の 7 割が奨学金である。
- ・ 給料のうち、銀行で決められた 10%分をパルマスで受け取っている。その他にも、100 レアル分を 100 パルマスに自ら望んで交換している。給料は、月に 540 レアルである。受け取ったパルマスは、スーパーで日用品の購入や、バイクの燃料費、その他、服や食事などに利用している。パルマスが余ることない。パルマスで貯蓄はできない。

2011 年 2 月 24 日（木曜日）

9:00-10:00

ドナ・イナシアとサミア・イナシア（Dona Inácia and Samya）：

女性企業家とその娘（大学生）

従業員は本人、娘、助手（ジュリアナ）の 3 人。ミシンを 6 台持っている。

サミア：事業を興そうと思ったとき、お金がなかったので、開業資金を得るためにパルマス銀行から融資を受けた。およそ 8 年前（2003 年ごろ）に初めて融資を受けたとき、利子率は月 4% であったが、今は月 2% である。融資を受けて、機材や原材料などを買うことができ、少しずつ事業が上向いた。パルマスで服を購入したお客には割引をしている。パルマス銀行のおかげで地域経済が発展し、生活水準が向上した。また、パルマスで公共料金が支払えるようになったことがありがたい。

Q. どうしてパルマス銀行から融資を受けて、この事業を始めようと思ったのか。

A. イナシア：以前から服を縫う作業などをしてシャツを作っていた。昔は他の工場などで作っていたが、融資を受けてから、工場を辞めて家で作るようになった。家で作った方が収入がよいということ、家事をしながら仕事ができるということがある。また、パルメイラ地区に仕事を作ることができる。今現在、助手をしている女性は、パルマ・ファッションで研修を受けて、ここで働いている。イナシア自身は、パルマ・ファッションでは研修を受けてはいない。

サミア：母親（イナシア）から仕事を教えてもらった。

Q. 事業を始めてから、作るものなどが変わったのか。

A. イナシア：かつて働いていた工場などでは、男性用のシャツを作っていたが、ここでは女性用の服を作っている。

サミア：最初の頃は、ここでも男性用のシャツを作っていた。

Q. パルマス銀行から受けた融資はいくらで、金利はどのくらいであったのか。

A. イナシア：最初にパルマス銀行から 1000 レアルの融資を受けた。借りた当初は金利が 4% と言われたが、その後すぐに 3% でよくなった。今は 2% となっているが、これ以上は下がない。

Q. 当時の他の商業銀行の金利はいくらぐらいであったのか。

A. サミア：当時の商業銀行の金利はおよそ倍ぐらいだったのではないかな。

Q. パルマス銀行以外から融資を受けるということは考えていなかったのか。

A. イナシア：パルマス銀行が設立される以前は、友人同士で貸し借りを行っていた。

サミア：パルマス銀行が設立されたことで、友人同士での貸し借りよりもよくなった（イナシア：安全性が高まった）ので、パルマス銀行から融資を受けるようになった。

Q. 今現在も借りているのか。8 年前に借りた融資の返済は。

A. イナシア：今は借りていない。正確には覚えていないが、去年（2010 年）の 11 月ぐらいに完済した。

Q. 最初の融資を受けた 1000 レアルで何を購入したのか。

A. イナシア：最初は繊維を購入した。機械ではなく原材料の仕入れに使用した。最初は 2 台のミシンを退職金と貯金で購入し、収入が増えるとともに買い足していき、現在は 6 台ある。最新の一番高いミシン機械は 1500 レアルする。

Q. 高い機械に投資することで、事業が成功すると見込んでいたのか。

A. イナシア：やってみないと分からないので、最初に 1000 レアルを借りてみたが、うまくいったので、さらに融資を受けた。最大で 1800 レアルを借りた。パルマス銀行側はもっと融資できると言ったが、こちら側としては十分だったので断った。無理はできないので、これだけ借りたらいけるだろうという判断（どういう基準で判断をしたのか→自分の事業に自信があるが、借金を抱えるのが不安でもあった）を行って借りた。もちろん、細かい必要経費や売り上げ予想などの計算も行っている。娘のサミアが大学 2 年生で会計学の勉強しており、いくらかかるかなどの細かい計算ができる。多少の上下はあるが、利益も毎月コンスタントに出ている。

サミア：年間の売り上げは、およそ 22,000 レアルある。ここから原材料費や給与などの経費を引かなければならないが。助手の給与も売り上げのうちから支払っており、他の工場などと同じ最低賃金を支払っている。

Q. 給与をパルマスで支払う場合もあるのか。

A. サミア：手元にパルマスがあれば支払うこともあるが、実際にはレアルでの収入がほとんど。レアルをパルマスに交換して支払うことはない。

Q. パルマスでの収入は、売り上げのうちの何%ぐらいか。

A. サミア：全体の 10%ぐらいである。

Q. パルマスで商品を購入された場合の割引はどのくらいか。

A. サミア：5%の割引をしている。

イナシア：

- ・お店で作った商品は全て、ここで直販している。
- ・購入する人もパルメイラ地区の住民である。顧客の年齢は関係なく子供から大人まで。また、子供服も作っている。
- ・デザインは既成のものを買っている。

サミア：

- ・または、デザインというほどのものではなく、その場でカットしたりしている。クリエイティブティがあるので。

Q. 受け取ったパルマスはどのようにして利用しているのか。

A. イナシア：パルマスは、スーパー、ガソリン代、公共料金（上下水道、電気、ガス代）の支払いに利用している。

Q. パルマスがあることで自分たちの事業や生活がどの程度影響を受けていると思うか。

A. イナシア、サミア：昔と比べて産業が増えて、活気が出てきた。街も大きくなって成長してきた。パルマス銀行の設立とパルマスの導入という両方の相乗効果があった。

Q. パルマスで商品を購入すると 5%の割引を受けられるようだが、そのようなサービスを受けているか。

A. はい。5%だけでなく 10%や 15%の割引をしてくれるお店もある。服やスポーツクラブなど。

Q. パルマスを受け取り、パルマスで商品などを購入する方が得だと思うが、そういう意味でもパルマスをどんどん使おうという気持ちはあるか。

イナシア：リアルだろうがパルマスだろうが同じものを購入するので変わらない。

サミア：地区内ではパルマスの方がよいが、地区内だけで生活しているわけではないので、外に出たらリアルしかない。

Q. 例えば、10%か 20%の給与をパルマスで払うようにすれば、80%を域外で使うことができ、20%を域内で利用することになる。そのようなことはしないのか。

A. サミア：そこまでパルマスでの売り上げがないので、両替しなければならない。そこまでたくさん両替しようとは思わない。

Q. イナシアはパルメイラ地区の外で買い物をすることはあるか。

A. 時々ある。糸などがこの地区では売っていないので。パルメイラ地区内ではリアルもパルマスも同じだが、地区の外にでると全く異なる。

Q. サミアはどういったものをパルメイラ地区の外で買わなければならないと思っているか。

A. 大学の学費（授業料）はリアルでしか支払えない。他にもコンタクトレンズはリアルでしか買えない。この地区内で売っていないものは、リアルで買うしかない。

Q. 仮に自分の収入・所得の何%までなら、パルマスで受け取っても大丈夫か。

A. サミア：20%ぐらい。

Q. この事業を今後拡大していこうと思っているか。

A. イナシア：色々面倒なので、これ以上事業を大きくしようとは思っていない。

Q. 娘さんは今後、この事業を継承しようと思っているか。

A. サミア：大学に入りたての頃は、会計になれていなかったのも勉強に集中していた。次第に、大学の勉強にも慣れてきたので、母親の仕事を手伝うようになった。夢としては、会計事務所を作りたい。

Q. イナシアはこの事業を誰かに継いでもらいたいと思わないか。

A. イナシア：そのときには誰かを雇わないといけないかもしれない。自身が所有だけして、誰かを雇い入れることもあり得る。

Q. パルメイラ地区についてどう思っているか。

A. イナシア：私は 20 年間ここに住んでおり、気に入っている。これからも住み続けたい。

サミア：私もここに住み続けたい。この地区は成長してきた。大学はフォルタレザの中心街。

Q. パルマスが導入される際、どのような説明が行われたのか。

A. サミア：地域の経済を成長させるための道具であるという説明であった。

Q. 詳しい使い方に関する説明はあったか。

A. サミア：あった。導入時に、商店や事業所などを一軒一軒まわって、説明を受けた。パルマス銀行で講演会が行われ、そこに聞きに行ったりした。

イナシア：パルマス銀行からの説明を受けて、地域を助けたり、いろいろなことを推進したりするための道具であることは分かった。

Q. パルマスの導入によって、期待通り地域はよくなったか。

A. はい。間違いない。

Q. ASMOCONP には参加しているか。

A. イナシアだけ参加している。

・他のところで作られた服も販売している。

10:30-10:50

ドナ・ノエミア (Dona Noêmia) : Bar do Kadir 飲食店経営者

Q. こちらのお店はパルマス銀行からの融資を過去1年以内に受けているか。

A. はい。現在、まだ返済中である。

Q. どのくらいの融資を受け、どのようなことに利用したのか。

A. 200パルマスを借りており、203レアル返済している(2ヶ月での利子3レアル分(2ヶ月1.5%, 月0.75%)である)。借りたパルマスは、燃料代や食料代などに利用している。

Q. このお店ではパルマスを受け取っているか。それは売り上げのどのくらいか。

A. はい、受け取っている。パルマスを利用するお客はおらず、ほとんどがレアルで支払う。パルマスの利用者は、1週間に1人くらいである。

Q. 受け取ったパルマスを他のお店で利用することはあるか。

A. 飲み物を仕入れるために、隣の店で利用している。

Q. 融資を受けたパルマスの燃料代もお店のために利用しているのか。

A. お店のキッチンの燃料費に利用している。

Q. お店の売り上げは1週間でどのくらいか。

A. それは秘密。

Q. パルマスを利用して、自分が豊かになった、コミュニティが豊かになったと思うことはあるか。

A. 改善した。地域内のお互いの店で買い物をするようになった。

Q. お店の売り上げの中で、パルマスを増やすように、宣伝や割引などを行っているか。

A. 割引は特にしていない。

Q. パルマス銀行が隣にあるので、銀行を訪れる人がよくこのお店にも来ると思うが、そのような人はよくパルマスを使わないのか。

A. このお店はバール(飲み屋)でしかないので、あまり買う物がない。他の品物が充実したお店でパルマスを利用している。提供しているのは飲み物だけである。

Q. 初めて融資を受けたのはいつ頃か。

A. 覚えていない。去年は3回融資を受け、今年は1月に1度融資を受けている。

Q. 家族は旦那さんの他には。

A. 息子とその嫁, そして孫がいる。日中に, 息子とその嫁が働いているため, 孫を預かっている。
この近くに住んでいる。

Q. 最初にパルマス銀行が設立されたとき, どのような説明を受けたか。

A. パルマス銀行でミーティングがあり, そこで説明を受けた。それから実際に始まり, パルマス
やリアルで融資を受けるようになった。

Q. パルマス銀行の設立当初から融資を受けているのか。

A. すぐではない。

Q. この地区に住んでから何年ぐらいになるか。

A. 1980 年 (旦那さんは 1979 年からと言っている) から住んでいる (31 年間住んでいる)。

Q. その当時と比べて, いろいろと変わってきたと思うが, 一番何が変わったか。

A. 最初住み始めたころは, 経済活動はほとんどなかったが, パルマス銀行などの設立によって,
経済活動が盛んになった。

Q. この近辺もきれいになって, 安全になったか。

A. まあまあ。昔は人口が多くなかったので, 犯罪が少なかったが, 現在は人が増えたことで, 犯
罪も増えるようになった。

Q. 街の様子も変わったと思うが, 人の気持ちや人のつながりは変わったか。

A. もちろん変わっている。この地区を最初に訪れた時は, 密林 (ジャングル) であった。現在で
は教育水準が高まった。

Q. このお店はいつから始められたのか。

A. 1985 年にお店を始めた。

Q. このお店はずっと二人でやっているのか。

A. 昔は別の仕事をしていたが, 今は失業した。昔は息子などが手伝いをしていた。店も昔と比べ
て小さくなった。

Q. パルマスが導入された時に, どのような説明を受けたのか。具体的に。

A. 「金利が安いから良いお金である」という説明を受けた。

11:00-12:15

エリ阿斯・リノ・ドス・サントス (Elias Lino dos Santos) :
パルマ・リンピのコーディネーター

事前情報：Elias は哲学専攻の大学 3 年生。

Q. プロジェクトの経緯とエリアスのこのプロジェクトにおける役割について

A. パルマ・リンピ (Palma Limpe :「パルマ洗剤」プロジェクト) は、2001 年 12 月の創設以来、法人格を持っている。ASMOCONP が開催していた講座に若い人々が参加し、その中で、衛生面、食料品、衣服など地域の中で消費されているものをマッピングした。貧しい地区の人々なので、みんなお金を持っていないだろうという偏見を持っていたが、実際調べて見ると意外と消費していた。そこで、連帯経済の企業を興そうと思い、地域の中の需要を掘り起こした。そして、若い人々がジョアキンと話をし、ジョアキンから SEBRAE を紹介してもらい、そこで相談をした。その結果、若い人々が経営学を学び、ASMOCONP が市役所をお願いして、化学の先生をこちらに呼んできてもらい、色々と教わった。そして、連帯経済の企業としてパルマ・リンピが設立された。ここでは、地域発展、自主運営型の協同組合、民主的な意志決定、パルメイラ地区の同様の企業との連携、という理念の下、5 名でプロジェクトが開始した。

Q. 法人格を取得したのは、最初からこのような計画をジョアキンが考えていたということか。

A. 零細企業が持つ問題として、法人格が取れないと、きちんとした領収書を発行することができず、お店などに納入ができないことがある。そのあたりのことをジョアキンが分かっており、法人格を取得してスーパーなどに品物を販売できるようにした。若者だけで、始めたプロジェクトなので、役所の手続きなどが分からず、その点をジョアキンがサポートした。

- ・商品販売する企業としてパルマ・リンピが創設されたのだが、ここは若者たちが知的に、そして政治的に成長していく場であり、パルマス銀行の運営にも関わっていくようになる。5 名の発足メンバーのうち、3 名は現在もプロジェクトに関わっているが、2 名は普通の企業に就職した。
- ・2003 年には、「最初の雇用」という研修コースが、連邦政府の資金で開催された。セアラ州内で事業を委託できるところを探していた。その委託先の 1 つに ASMOCONP が選ばれた³⁰。

³⁰ エリ阿斯自身、正確なところ、ASMOCONP、パルマス銀行、パルマス・インスティテュートなのかははっきりしたことは分らない。この 3 つの組織が常に一緒に動いているため。ただし、雇用創出は ASMOCONP の担当になっている可能性が高く、また ASMOCONP は法人格を持っていたことから、ASMOCONP が委託先になった可能性が高い。

Q. ASMOCONP, パルマス銀行, パルマス・インスティテュートの目的は異なるのか。

A. はい。3つの組織について、ASMOCONPは政治要求を行うところで、パルマス銀行は、ブラジルで最初のコミュニティ・バンクであり、パルマス・インスティテュートは、法人格を持っている組織（補助金や領収書などを出し、他のコミュニティ・バンクも管理している）であり、さらにルシアーノが法制面での整備をしてもらうのを掛け合う仕事もしている。

Q. パルマリンピはどこのプロジェクトであるかということをはっきりしないということか。

A. それぞれの活動が組み合わさってできているので、どれがということをはっきりしない。

・2003年に「最初の雇用」という研修コースの講座が6ヶ月あり、それを受講した後、直接仕事にはつながらなかったが、人間関係ができた。そして、2005年にパルマ・リンピで働いていた人が抜けたので、働かないかと誘われた。エリアスは創設者の5名のうちの1人ではない。ただし、パルマ・リンピで働く際に、洗剤などの製品の作り方だけでなく、組織の沿革などについても教わった。

・多額の投資を必要としないような形で、手作業で細々と経営を続けている。開業資金はパルマス銀行から5000レアルの融資を受けた。

Q. このようなユニークなプロジェクトはどのようにして生まれてくるのかについて興味がある。パルマ・リンピの発足時にはいなかったが、どのような形でこの組織が生まれたのかについて、知っていたら教えてほしい。それぞれ別々のネットワーク（ASMOCONP：政治、パルマス銀行：経済、パルマス・インスティテュート：ネットワーク・法制度）が合わさったときに、パルマ・リンピが出てくる。その際に、パルマス銀行の思想は重要だったと思うが。

A. 当初、パン屋を作るという計画もあったが、需要がある製品を作るということを考えており、洗剤の方が初期投資が少なくてよいことから、ASMOCONP, パルマス銀行, パルマス・インスティテュートと相談をして、最終的に決定した。そして、化学の先生を派遣してもらうよう市役所に要請し、プロジェクトを具体化し、連帯経済の実例となった。パルマス銀行が金融サービスを提供し、パルマ・リンピが連帯経済の原則のもとで、製品を作る企業となり、連帯企業家（solidarity entrepreneurship）³¹が可能であることを示した。

Q. 地産地消を考えたとき、パン屋の方が良い気がするが、なぜ洗剤を選んだのか。

A. 確かにその通りではあるが、パン屋は地元には十分あり、さらに作ると競争が起こり、他のお店の客を奪ってしまうことになり、連帯経済的ではない。マッピングしたのは、この地区にどのような業種があって、どのような業種がないかということを探るためであり、確かに競争はあっても良いが、過当競争は必ずしもよいものをもたらすわけではない。パルマ・リンピは連帯経済における社会技術の具体化である。

³¹ 正確には「連帯経済の文脈に沿った企業」の意。

Q. 地産地消という観点では、何か地元のものを使っているのか。

A. 残念ながらそれはない。パルメイラ地区でそのようなものを作っている人はいない。フォルタレザなど中心街の別の地域から原材料を仕入れている。

Q. 日本では洗剤などを使った生活排水が下水を汚すことで問題になっており、化学洗剤などはあまり使わず、天然のものを使うようになっているが、その点についてどのように考えるか。

A. ブラジルでは独自の基準があり、その基準を守るようにして、化学洗剤ではあるができるだけ環境を汚さないようにしようと考えている。

Q. 洗剤はパルマスで販売しているのか、レアルで販売しているのか。

A. 洗剤 1 本 (0.94 レアル) を購入するのに、1 パルマスで支払う場合、おつり (0.06 レアル) をレアルで支払う (パルマスでは細かい額面がないため)。レアルでの担保がある。

Q. ここで小売をやっているのか。

A. パルマス・ショップでも販売しているが、その他の地区内のいくつかのお店でも販売している。パルメイラ地区の隣の 2 つの地区でも販売しており、セアラ州連帯経済ネットワークを通じて、フォルタレザ市内でも販売している。

Q. どのくらいの売り上げがあるか。

A. 月 2,000~2,500 リットルを販売している。

Q. 今は融資を受けないで経営しているのか。

A. これまでに融資を 5 回受けたことはあるが、現在は受けていない。

Q. 現在、パルマリンピで働いている人は 3 名だが、給与は利益を 3 人で分配しているのか、それとも決まった給与があるのか。

A. 基礎給与というのがあり、それとは別に余りが出た場合にはみんなで分配する。法的には会社の形態を取っているが、実際の運営は協同組合である。なぜこのような形態を採っているかというと、ブラジルの法律では、協同組合を設立するためには 20 人が必要である。それほど人を集めることができない。法人格を取得するために、私企業の形態を採るが、運営は協同組合的なものにすればよい。

・パルマ・ファッションは協同組合であるが、法人格は所有していない。法人格を取得しないのは、手続きが煩雑であることと、費用がかかるからである。法人格を取得するための条件を満たすことができないため。

Q. 大学に行くための教育プログラムについて

A. 国公立の大学に入学するためには、日本で言うところのセンター試験のようなもの³²を合格しなければならず、非常に競争倍率が高い。初等中等教育に関しては、公立と私立があるが、公立学校のレベルは低く、収入の少ない人たちが入学している。収入の多い人は私立学校に行き、良い教育を受け、そこから国公立大学に入学する。その一方で、貧しい人々は、私立学校などのような良い教育を受けられず、国公立大学に入学できないといった現象が起こっている。

・国公立大学に通えるように、センター試験向けの予備校がある。

外国語試験：英語、スペイン語、イタリア語、ドイツ語、フランス語

国語：ポルトガル語、文学（ブラジル文学、ポルトガル文学）

歴史：ブラジル国史、世界史

地理、数学、物理、化学、生物学

Q. それほど裕福でない人が大学に行くにはお金がかかるということだが、大学に入学すれば無料という話を聞いた。では、大学に入学するまでにお金がかかるということか。

A. 大学に入学すると、大学までの交通費や教科書代などがかかる。ここまでに至るには 15 年の教育費が必要になる。大学には授業料を払う必要がない（無料である）が、受験に備えるためにお金が必要である。

Q. 今は哲学を勉強しているのか。

A. 学部の標準年限は 4 年で、2008 年に入学しているので、順調にいけば今年の末に卒業できる³³。

Q. 大学で学んでいることと、現在働いている仕事に何か関係はあるか。

A. 西洋文化圏では目的や手段をはっきりさせなければならない。「哲学なんて勉強してどうするの」ということをよく聞かれるが、哲学はどのような活動を行うにしても基本となるので、私は連帯経済で洗剤を作っているが、その活動の意味みたいなこともわかるだろう。哲学は机上のものにも思えるが、そのようなものが社会を変えていく原動力になると考える。西洋哲学に興味があり、イギリス人の哲学者が特に好きである。例えば、マキャベリ、ホッブス、ルソー、マルクスなど。

Q. パルマリンピでは給与をいくらぐらいもらっているか。

A. 最低賃金（540 レアル）は受け取っており、それに加えて余剰分を受け取っている。

³² ブラジルでは、ヴェスチブラー（Vestibular）と呼ぶ。

³³ ブラジルは 12 月に学期が終わり、1、2 月が休みで、3 月から新学期が始まる。

Q. 売り上げのうちどのぐらいをパルマスで受け取っているのか。

A. 30～40%をパルマスで受け取っている。パルマ・リンピは、地域に根ざした産業であるから、みんなパルマスで購入してくれる。

Q. 自分の給与のうち、どのぐらいをパルマスで受け取っているか。

A. 最低でも 10%は受け取っている。

Q. パルマスで受け取った分の売り上げは、すべて給与にまわすのか。原材料などは域外から入手すると言っていたが。

A. パルマスを受け取っている企業はすべてパルマス銀行に登録しており、使い切れないほどのパルマスを受け取った場合は、パルマス銀行に行きレアルに両替している。

Q. 洗剤 1 本あたりの費用の内訳はどうなっているのか。

A. 75%が原材料費（製造費）、残り 25%が余剰であり、給与になる。

14:00-15:20

ルシアーノ・シドラック・ヴァレ・ジュニオール (Luciano Cidrack Valle Junior) :
パルマス・インスティテュート担当

Q. パルマス銀行に関していろいろと調査してきたが、一番重要なのはパルマス・インスティテュートではないか。

A. はい。

Q. パルマス・インスティテュートはどのような役割・仕事をしている組織であり、その中でルシアーノの役割とはどういうものなのか。

A. インスティテュートの役割は、ブラジルにあるコミュニティ・バンクの活動をコーディネートすることである。ブラジルには、パルマス銀行を含めて 52 のコミュニティ・バンクが存在する。インスティテュートには融資と商業銀行からの支払い業務の委託という仕事がある。

Banco Popular = 民衆銀行³⁴

・2010 年はブラジル銀行の方が重要であったが、2011 年はカイシャ (CAIXA) ³⁵の方が重要になると思われる。カイシャと一緒に仕事を始めたのが 2010 年 9 月から。預金の引き落としを行う際に、暗証番号ではなく指紋認証によって確認する。そのための指紋の登録作業をカイシャが行っている。

Q. パルマス・インスティテュートが設立されたのは何年で、誰が設立したのか。

A. パルマス銀行は、1998 年に、ジョアキンとコミュニティの数名によって設立された。そして、パルマス・インスティテュートは、2003 年に、パルマス銀行の実例を他の地域に広めるために、ジョアキンが中心となり設立された。

Q. ルシアーノがこの仕事に就くようになった経緯とそれまでの履歴を教えてください。

A. もともと隣のマラングアペ (Maranguape) の市役所で働いていた。そこで、コミュニティ・バンクが設立され、1 年間ほど手伝っていたところ、2007 年にパルマス銀行側から招聘があった。

Q. 市役所ではどのような仕事をしていたのか。

A. マラングアペの自治体でコミュニティ・バンクが設立されたので、そのコーディネートを市役所で担当していた。

³⁴ ブラジル銀行 (ブラジル最大の商業銀行) 傘下であり、貧困層向けの融資を実施している組織のようだが、公式サイトにもほとんど情報がない。<http://www.bb.com.br/portalbb/home13,8900,8900,0,0,1,0.bb>

³⁵ 1861 年に連邦政府により創設された金融機関で財務省傘下であり、特に公共政策の実施と関連がある。宝くじの販売や、利益による文化活動の資金援助も実施。<http://www.caixa.gov.br/acaixa/index.asp>

Q. コミュニティ・バンクと市役所の間でのコーディネートとは、どのようなことを行っていたか。

A. いろいろな仕事を行っていたが、例えば融資の調整、CAIXA の支払い業務などを行っていた。
市役所の職員という肩書きで、コミュニティ・バンクに出向していた。

・2005 年にマラングアペのコミュニティ・バンクで仕事を行うようになり、それから 1 年半ほど
仕事をして、2007 年末にパルマス銀行の職員となり、ここで 4 年働いている。パルマス・イン
スティテュートの創設時にはいなかった。

Q. マラングアペのコミュニティ・バンクは、パルマス・インスティテュートの仕事であるパルマ
ス銀行のモデルを広めることの事例となるのか。

A. はい。2005 年からマラングアペのコミュニティ・バンクの仕事に携わり、実際にコミュニ
ティ・バンクの運営が始まったのが 2006 年である。

<パルマス・インスティテュートの活動>

Q. パルマス・インスティテュートの仕事は具体的にはどういったことを行っているのか。

A. 融資、公共料金の支払い、各銀行の設立をフォローアップ

Q. 各銀行の顧客情報や信用情報などの交換は行っているか。

A. はい。コミュニティ・バンクは、ブラジルでは 13 年の経験がある。例えば、新しいコミュニ
ティ・バンクをどこか別の場所に設立しようとした場合、これまでの知識を伝える。ある意味
フランチャイズのようなものだが、フランチャイズ料金は受け取らず、ただ知識を移転するだ
けである。

Q. 今後、ブラジル以外の外国で同じようなことを行う予定はあるか。

A. ブラジル国外で行う予定はないが、他の国と提携関係を結んでいる。例えば、ベネズエラの場合、
政府の方に来てもらい、ブラジルの経験を学んでもらい、そこでの経験が本国に伝えられ
実践されている。

Q. ブラジルに限っているということは、政府、特に州からの助成金がブラジル内に限られている
ということと関係しているか。

A. ブラジルの自治体は約 6000 近くあるが、コミュニティ・バンクは 50 ぐらいしかない。まだ
まだ、この活動を広げていかなければならない。とても外国まで手が回らない。10 年ぐらい経
って、国内でさらに事例が増えてくれば、他の国にまで拡大することもあり得るが、今のところ
そのようなことは考えていない。コミュニティ・バンクが存在する自治体は、ブラジル全体
でも 1%にも満たない。残りの 99%のところに、この事例を広げていくにはまだまだ時間がか
かる。

<パルマス・インスティテュートと州政府の関係>

Q. パルマス・インスティテュートと州政府の関係を教えてほしい。

A. セアラ州政府からは州内各地におけるコミュニティバンクの設立のために FECOP（貧困撲滅基金）を通じて 645,000 レアルを、ブラジル連邦政府からは、160,000 レアルの資金提供を受けている。

Q. FECOP からの 645,000 レアルは何に使っても良いお金なのか。

A. コミュニティ・バンクの設立業務の委託を受けた際に、食費や交通費、事務経費などを含めて、使い道が細かく決められている。何でも使って良いというわけではない。

<パルマス銀行とパルマス・インスティテュートの関係>

Q. パルマス銀行の決算報告書はあるか。

A. はい。Fantasy name（仮名）がパルマス銀行であり、法人として存在しているのがパルマス・インスティテュートである。その名前の下で、パルマス銀行が活動を行っている（巻末資料あり）。

Q. 法務省によって管轄を受ける実体は、パルマス・インスティテュートの方になるのか。

A. はい。その通り。

Q. この中に利子収入とか焦げ付きとかが含まれていないように思われるのだが。

A. 2010 年までは、ブラジル銀行の代理業務のようなことをやっており、金利はパルマス・インスティテュートが管理していた。収入などはブラジル銀行のものになっていた。今年（2011 年）からはブラジル開発銀行（BNDES）に管轄が移った。

・不良債権は「その他（OUTROS）」³⁶の中に含まれている（不良債権は、実際には少なくても、1% ぐらいでしかない）。

Q. 普通の銀行であれば、貸出金利と預金金利の差額でだいたい収入を得ている場合が多い。パルマス銀行の場合、何が金融業務の収益になっているのか。

A. パルマス銀行には預金がないので、他の銀行からお金を借りて、それを貸し出している。

Q. 他の銀行から借りてきた金利より、貸出の金利が高くないと収益がでないはずだが。

A. 借りる場合には、例えば、ブラジル銀行³⁷などから年 7.5%の金利で借り、貸し出す時には、月 2%（年 24%）の金利で貸し出しているのです、差額がある。

³⁶ 決算報告書の中のカテゴリ。others の意。

³⁷ ブラジル銀行は商業銀行であり、日本にも支店がある。また、2010 年まではブラジル銀行（商業銀行、2011 年からはブラジル開発銀行）となっている。<http://www.bb.com.br/portalbb/home2,8020,8020,22,0,7,8.bb>

Q. 日本では現在とても金利が低いので、例えば月に 1.5%, 年に 15%でも高く感じるが、ブラジルでは大変低い金利ということでしょうか。

A. ブラジルの商業銀行は月 4-12% (年 48-144%³⁸) である。他の銀行に比べると、パルマス銀行の利率は非常に低い³⁹。

Q. 金利の上限を制限するための法律はあるのか。

A. 特にない。

Q. ブラジル銀行から年 7%で貸し出しを受けているということは、支援してくれているということか。

A. 年 7.5%というのは公定歩合である。ブラジル銀行（商業銀行一般）は、中央銀行からその利率で借りて、むちゃくちゃな利率で貸している。

Q. ブラジル銀行の儲けはどうなっているのか。

A. 先ほどの、年 7.5%はブラジル銀行ではなく、ブラジル開発銀行である。ブラジル開発銀行は政府の銀行であるため儲けを出す必要がない。

Q. 借り入れの金額は決算報告書には入っていない。これは入れなくてもいいものなのか。

A. 729,400 レアルというのがあるが、このお金のブラジル開発銀行から借り入れて、それを貸し出し、それが返済されたら、パルマス銀行からブラジル開発銀行に返済を行う。

Q. この報告書は損益決算書 (P/L) であるが、ストックを表すようなバランシート (B/S) はあるか。

A. それはある。ジャックリーニが保有している。あるいはジョアキンに話せば何とかなる。

Q. パルマス・インスティテュートの仕事内容として、政府から補助金を獲得して、パルマス銀行などに分配しているのか。補助金を獲得する仕事をしているのか。

A. はい。

Q. FECOP からのお金をもっと増やして欲しいといったことをルシアーノなどが交渉したりしているのか。

A. はい。私が担当している。

³⁸ 単利での計算。複利だと月 4%で年 60.1% (1.04¹²) , 月 12%だと同じく年 389.6% (1.12¹²) になる。

³⁹ パルマス銀行は預金受け入れがないにもかかわらず、他の商業銀行に比べて金利が少ないのは儲けを少なくしているからであろう。

Q. ルシアーノの仕事において、一番重要な部分は、政府との交渉ということか。

A. いいえ。私は文書などを作成しており、実際に交渉するのはジョアキン。交渉相手などの連絡先などについては、ジョアキンが知っており、私は交渉に必要な公式文書などを作成する役割を果たしている。

Q. コミュニティ・バンクをブラジルに広げていく上で、一番難しいことは何か。

A. コミュニティ・バンクの維持費（場所、人件費、光熱費など）。資金を得てから、貸出を行うが、利率が低いためなかなか利益が出ない。

Q. コミュニティ・バンクをインスティテュートが支援するために、もっと安いお金を貸すとか、資金提供などはしているか。

A. FECOP から、他の新しいコミュニティ・バンクが設立され、初期に融資を行うための資金として、（決算報告書：645,000 レアルのうち）30,000 レアルがセアラ州政府から割り当てられている。これはわずかな金額であり、残りは他の銀行から借りてこなければならない。

Q. コミュニティ・バンクは特に利益が出なくても、ぎりぎりのところでやっていけばよいはずである。その場合、なぜ利益を出さなければならないのか。

A. 翌年に繰り越す。

Q. 日本では単年度決済で年度末に全て使うが、ここでは翌年度に繰り越せるのか。

A. ブラジルでは、繰り越しに関する規制はない。2 年計画や 3 年計画のプロジェクトがあり、1 年目に使う額と 2 年目に使う額というものが決まっている。

Q. コミュニティ・バンクを設立する際に、知識を移転すると言っていたが、簡単ではないと思う。教える相手も金融に関する知識などを持っていないといけない。人材の育成などはどうやっているのか。

A. こちらから人材を 1 週間から 2 週間ぐらい派遣して、講座、講演会、セミナーなどを開催している。

Q. パルマス銀行とプロヘンダの関係について教えてほしい。

A. パルマス銀行が設立される以前に、ASMOCONP が参加していた旧プロジェクトのことである。銀行が企業家にお金を渡し、製品を買ったり、機材を買ったりする。お金をもらうだけもらって、返さなかったため資金が続かなかった。

Q. プロヘンダは企業家に投資して、職を作るという政府のプロジェクトではないのか。

A. 政府から企業家に対する融資であったが、借りた企業が返済しなかったため、終了した。

Q. ドイツの GTZ と共同で実施しているという話だったが、どのような経緯でそうなったのか。

A. 私はよく知らない。

Q. プロヘンダは企業に融資するという話だったが、ASMOCONP も企業と同じように融資を受けたということか。

A. いいえ。

Q. ASMOCONP は何をしたのか。

A. 私はこの時期にいなかったもので、よく分からない。ジョアキンなら答えられるかもしれない。

Q. マッピングに関わっていたか。

A. いいえ。私は関わっていない。

Q. 各コミュニティ・バンクで使われる紙幣をここで保管しているが、各コミュニティ・バンクで保管せず、なぜここで保管しているのか。

A. コミュニティ通貨を発行するためには、それに見合うレアルでの担保がなければならない。レアルの担保がある分に関しては、ここから各コミュニティ・バンクに渡しているが、それが無い分に関しては、ここで保管している。

Q. 見合う担保がないと発行できないというルールは厳しく徹底しているのか。レアルを保有していないとパルマスを発行できないのか。

A. はい。その通り。

Q. 信用創造のようにお金をたくさん発行することはできないが、もう少したくさん発行してこの地域の経済を発展させるということはやらないのか。全員一度にレアルに換金しに来るわけではないので、100%は必要ないのではないか。

A. それはできない。なぜかという、発行されたお金で消費者が地元商店で買い物をする。そのお金を商店がレアルに換金するので、レアルの担保がないと発行できないからである。

Q. 100%替えなくても、流通している部分が 50%あればレアルはそんなに必要ないのではないか。

A. 例えば、この 1 本のミネラル・ウォーターを 1 パルマスで販売した場合、受け取ったパルマスを銀行でレアルに換金して、ミネラル・ウォーターの製造業者に支払いをしなければならない。

Q. いろいろなところで聞いた話では、皆さん受け取ったパルマスを換金せずに他のお店で利用している。パルマスがこの地域内で流通しているということではないか。

A. 例えば、ガソリンスタンドの場合、仕入れるものはガソリンだけである。ガソリンは当然のことながらレアルでしか購入できない。仕入れ代金を得るためには、パルマスをレアルに替える必要がある。他のお店の場合には、換金せずに使うこともできるが、ガソリンスタンドの場合にはそれはできない。

Q. レアルの担保がないと発行できないということは、パルマス・インスティテュートが作ったルールなのか。

A. 中央銀行とパルマス・インスティテュートとの間での合意があるので、レアルの保有分でしかパルマスを発行することができない。100%の担保が必要。

Q. その合意はいつできたのか。

A. 私は分からないが、ジョアキンが覚えていると思う。

・担保以上の額を地域通貨として発行した場合、それは貨幣の偽造につながるとも言える。

<モチベーション>

Q. ルシアーノ自身のモチベーションについて聞きたいのだが、市役所で働いていてコミュニティ・バンクに出向したのは、自分がコミュニティ・バンクで働きたいと思ったからなのか。それともそのような命令がきたからなのか。

A. 最初は命令であった。

Q. 連帯経済を支援したいといったことからではないのか。

A. いいえ。特にない。

Q. パルマス銀行に引き抜かれたわけだが、なぜそれを受けたのか。

A. 最初はよく分からないまま働き始めたのだが、いざやってみると気にいって、前よりもいい条件がきたので、こちらに移ってきた。

Q. パルマス銀行は以前いたところよりも、いい条件を提示したのか。

A. はい。ちょうど立ち上げ期間が終わり、別の人物が安い給与で、そのコミュニティ・バンクで働こうとしていた時期だった。

Q. 今は、連帯経済あるはコミュニティ・バンクについてどのような考えを持っているか。

A. コミュニティ・バンクが導入されたところでは、多くの人たちの生活を変える可能性があるプロジェクトだと私は思う。非常に素晴らしいものだと思うし、人々を変える、いろいろな活動を発展させていくようなものだと思う。

Q. 例えば、パルマス銀行の経営が上手くいかなくなり、給与が半分になった。それでもここで働くか。

A. まあ、おそらくそうであろう。

Q. 現在、パルマス銀行が発行している全体の発行額はどのくらいか。

A. 発行額は 30,000 ぐらいである。

Q. 発行額はどのように決めて発行しているのか。

A. 担保となるレアルがあれば、いくらでも発行できる。

Q. 供給するのは、融資する時にパルマスで融資するか、誰かがレアルをパルマスに換金した時に供給するか、この2つの方法だけか。

A. その通り。この2つだけである。

Q. 私が購入したパルマスを換金することはできるか。

A. パルマス銀行と合意を結んでいる企業だけが換金を行える。個人は換金できない。

<新しいコミュニティ銀行の立ち上げについて>

Q. 新たにコミュニティ・バンクを設立する場合、それはどのようにして決めているのか。

A. 地域団体が、例えば州政府や市役所などと掛け合って、コミュニティ・バンクを設立するための資金を獲得する。資金ができたところに、ルシアーノが現地に行き、コミュニティ・バンクのあり方について説明する。

Q. パルマス・インスティテュートがコミュニティ・バンクの必要なところを探してきて、やりないかと言うのではなく、やりたいといったところを支援するのか。

A. 時々、インスティテュートが州政府に掛け合って、設立しようか、セアラ州の中でどこに設立しようか、といった上からのアプローチもある。基本的には、ASMOCONPのような住民団体から出てきたものを支援する。母体となるのはNGO（日本で言うところのNPO）などが主体。

Q. インタビューなどから、パルマスのお金に効果があると皆言っているが、実際にその経済効果をどうやって測り、どうやって人に説明することができる考えるか。

A. 消費マッピングの調査によって行う。どこで、月平均いくら消費するかということを聞いていき、数値化する。

Q. 全体として、マクロ的にどのくらいの効果があるか、例えば、数量的に何レアル上がった、何%上がったか、といった調査はしているか。

A. そのような数字はない。結果のみ。全数調査できちんとした数字は出せるとは思うが、費用がかかるので、実際にはサンプル調査で行っている。

→そのデータを見ることはできるか。：できる。ジョアキンが持っている。

Q. パルマス銀行が設立されたのは1998年だが、その当時からパルマスを発行していたか。

A. 歴史的な背景はジョアキンの方がよく知っている。

Q. ASMOCONPはどのようにしてインフラ整備を行ったのか。

A. インフラを市役所が作るように、デモをやったり、ミーティングをやったりした。

Q. 現在, ASMOCONP とインスティテュートには何らかの関係があるのか。

A. ASMOCONP は経済とは関係のない部分に労力を集中しており, 経済などの分野についてはインスティテュートが担当している。

Q. ブラジル国内にあるコミュニティ・バンク 52 行のうち, セアラ州には半分以上の 28 行ある。

ということは, コミュニティ・バンクがない州もあるわけで, どうやってブラジル全土に広めていくのか。そのための戦略とは。

A. 連邦政府との合意を得て, ブラジルの様々な組織に対して 7,000,000 レアルの資金が供与され, ブラジル各地の組織がパルマス銀行 (or インスティテュート) に来て, 研修を受ける。2012 年までに 50 から 100 のコミュニティ・バンクを設立する予定。具体的には, バイア州, サンパウロ州, エスピリト・サント州, パラー州から訪れている。各州担当ではなく, ブラジル全土を区分する 5 つの地域の担当。

Q. いくつかのプロジェクト (ファッション, リンピ, トゥール) について, インスティテュートが立案するなどの関係を持っているか。また, 新たなプロジェクトは企画しているか。

A. 訓練などのいろいろな支援は行っている。今のところ新たなプロジェクトを計画しているといったことはない。

2011 年 2 月 25 日（金曜日）

16:30-17:45

ナイヂ（Neide）：教育部門のコーディネーター

Q. 現在、パルマス銀行で行っている仕事の内容について教えてほしい。

A. 教育部門でのコーディネーターを 2 年から 2 年半やっている。この地区に住んでいるので、以前からコミュニティ活動をやっていた。

Q. 教育部門のコーディネーターとは具体的にどのようなことをしているのか。

A. いろいろなプログラムの組み合わせ：講座の結びつけ、カリキュラムの作成（サンドラと一緒に）、講師への連絡、パートナーシップ、情報提供、生徒への付き添い：休みがちな生徒のところへ行き励ます。

Q. これまでに教育プログラムでは、大学受験のための予備的な教育プログラムがあると聞いているが、それ以外に保育園などもっと小さなレベルでのプログラムにはどのようなものがあるか。

A. 私たちの焦点は、若者と女性である。具体的には、29 歳までの女性に対する講座、45 歳までの女性に対するインキュベータ、18 歳から 24 歳までの若者に対する講座、17 歳から 24 歳までの環境アントレプレナーシップなど。

Q. もう少し詳しく教えてほしい。それぞれ年齢にも幅があるがどのようなものか。

A. パートナーシップ先が、このコースは何歳までという条件をつける。

パートナーシップ先：ウォルマート財団、ブラジル石油公社（PETROBRAS），サンタンデル銀行（スペイン資本）、北東部銀行、AVON（2010 年 12 月まで）

Q. 例えば、29 歳まで、あるいは 45 歳までの女性に対する講座にはどのようなものがあるか。

A. 若い人向けのコースには、講座や企業などの研修がある。また、年代によって需要が違う。ある程度年齢を重ねた人はそれなりに能力があるが、それに対して若者は経験を積んでいないので、雇用市場においてもより脆弱である。とはいえ、ブラジルでは高校をでるまできちんと勉強しなければならぬため、18 歳未満は研修生になるわけにもいかない。よって、18 歳から 24 歳ぐらいを対象とした若者の研修コースがたくさんある。

Q. 29 歳まで、あるいは 45 歳までの女性に対する講座はどのようなものか。

A. 女性インキュベータに関して、女性の中でも特に脆弱な方が対象。そのような女性は、母子家庭の母親、夫から暴力を受けているような女性、さらに、学歴もほとんどなく、一番弱い立場にいる人である。彼女たちに対して、心理面でのサポート、栄養面でのサポート、その他の支援をして、労働市場に参入できるようにする。

Q. 子供がいる母親を労働市場に参入させるということだが、子供はどうするのか。

A. 女性インキュベータのコースは一年半である。保育所や学校で子供は過ごしている。保育所は、住民であれば誰でも入れる。保育所は市役所が運営しており、完全に無料である。

Q. パートナースhip先は誰かがお願いして見つけてくるのか。

A. 向こうから来るのもあれば、こちらから探してくるものもある。

Q. その場合、お金は出るのか。

A. パルマス銀行の口座を通じて、講座、研修、講師の謝礼などいろいろな費用のために、お金をもらっている（決算報告書：ウォルマートから 12 万、ペトログラスから 6 万近く）。2009 年まではサンタンデル銀行とパートナーシップを結んでいた。AVON との提携は 2010 年で終わった。

Q. パルマス銀行の教育プログラムに資金を提供しているということは、企業にとってはどのような意味があるのか。CSR のような社会的責任ということがあるのか、パブリシティを高めることにあるのか。どういう目的なのか。

A. いろいろな目的がある。税金として払うよりも、社会的プログラムに出資した方がよい。CSR もある。ただし、研修後に採用してもらえよう企業は存在しない。

Q. 教育プログラムでは、労働雇用を高める、労働者の教育水準や技術を高めることを目的としてやっていると思うが、研修生の雇用先というのはあるか。どういうところへ行っているのか。

A. たくさんある。SNE（全国雇用システム）によって、見つけられる。スクールネイバフッドプログラムを 2010 年までに 7 回行ったが、3 ヶ月間の企業研修をやらせて、そのうちの 70 人は正規の雇用を得るか、または別の企業に雇用された。

Q. このプログラムにおける企業はパルメイラ地区の企業なのか。地元での雇用創出につながっているということか。

A. この地区あるいは隣の地区の企業である。企業とは、セナの店、地区のスーパー、学校（補助教員という形で受け入れ）、ガソリンスタンド、もっと小さな個人経営の店、など。

Q. ブラジルあるいはセアラ州内の失業率が高いのか。

A. ブラジルの数字は分からないが、かなり失業率が高い。

Q. 研修生たちにパルマス銀行が雇用先を紹介することなどはあるか。

A. たくさんある。90 から 95% ぐらい。アドリアーノや CAIXA で受付をしている女性達も元々は研修生であった。他にもパルマス銀行で研修をしたあとで、フォルタレザ市内にある他のコミュニティ・バンクで働くようになった人もいる。

Q. ナイヂは給与のうちどのくらいをパルマスで受け取っているか。

A. 10%である。パルメイラ地区に住んでいるため、すべて地区内で使用する。

Q. この 10%というのは決まっているのか。自分で選択できるのか。

A. 自分では決められないのではないかと。頼めばもらえるかもしれないが。

Q. 教育プログラムのプログラム開発は誰がやっているのか。

A. ジョアキンやサンドラが中心となって決めていく。

Q. この職業の前はどのような仕事をしていたか。

A. 学校のコーディネーターをしていた。

Q. 以前の仕事と、現在のパルマス銀行での仕事で大きな違いはあるか。

A. 社会支援という形で、母親や子供と付き合う仕事であったので、そういった意味であまり違いはなかった。社会的支援ともちょっと違うかもしれないが、社会的なことをやっていたという意味では同じである。

Q. 以前は学校で、今回は銀行ということではちょっと違っているのではないかと。

A. 銀行ではあるが、基本的に人間を相手にする仕事だから変わらない。ASMOCONP, パルマス銀行, パルマス・インスティテュートという団体がありますが、基本的にその人を扱う仕事というものは同じである。

Q. 給与は以前よりも良くなったのか。

A. あまり違いはない。ちょっと良くなった。昔は政府から補助金をもらっていた地区内の学校(コミュニティ・スクール)で働いていたが、政府のお金がなくなって閉鎖された。学校では、幼児から 12 歳までの教育と親への教育を行っていた。

Q. 大学受験のための予備校のようなことをやっていたのか。

A. 2010 年までやっていた。今は地区内の州がやっている公立学校で大学受験予備校のような役割を果たしている。

Q. 高等教育を受けた人たちは、ここでは仕事を見つけられないのではないかとと思うが、それについて、どのように考えているか。

A. その通り。ここで研修を受けている人々は、高校を卒業した人もいれば、卒業していない人もいる。雇用の受け皿となるには、この地区はまだまだ力不足である。ましてや大学を卒業した人の雇用は難しい。先生などであればこの地区でも雇用はあるが、それ以外はない。

Q. どこかに出て行ってしまうのでは。

A. 地区には住み続けるが、雇用先としては、他のところに行く。例えば、ナイヂのお嬢さんは、大学で英文学を専攻しており、この地区でも教えるし、中心街の英会話教室でもやっている。

Q. この地区には何年住んでいるのか。

A. 30 年。

Q. パルマス銀行やパルマスができる前からいると思うが、それらができてどう変わったかということ自身を自身の体験から感じたことはあるか。

A. 地域のイメージが改善した。貧しくて、暴力沙汰で、スラム街⁴⁰であるといった悪いイメージがあった。対外的なイメージが良くなり、研修プログラムなどを地区内で行うことによって、雇用可能性が高まった。

Q. 昔は暴力などがあって危険であったのが、今では安全になったということか。

A. パルメイラ地区自体はかなり良くなってきたが、この周囲の地区に最近いろいろな人が住み着いて、そのようなところは雇用もなければ衛生状態も悪い。麻薬の取引や武器を使った襲撃などを行う人が増えてきて、この地区が危険になってきた。

Q. パルメイラ地区は本当に安全になったと感じているか。それとも、イメージが変わっただけで、本当に安全になったとは思っていないのか。

A. 内外両方からのイメージが良くなっているが、例えば、家庭崩壊のような問題の多いところである。暴力につながるようなことが起こる。麻薬取引などを逮捕するようなプログラムを警察や市役所などが行っている。

Q. 日本では 2, 3 年前に、アメリカの金融危機で急に経済が悪くなって失業者がものすごく増えた。パルメイラ地区ではここ 2, 3 年で経済は良くなったと思うか。悪くなったと思うか。

A. 一般的に、悪くなっている。ブラジル内でもフォルタレザは物価が安いところであるとセアラ州政府が言うが、私たちはそうは感じない。日雇い労働でやっと食いつないでいる人も多いので、物価が安いと言われてもあまり実感はない。

Q. それは物価が高くなっていると感じているということか。

A. 私が思うだけで、一般に思っているかどうか分からない。

Q. 30 年前はちょうど ASMOCONP ができた頃だと思うが、最初から ASMOCONP の活動に参加していたのか。

A. この地区に来たころは 10 歳から 12 歳であったので、参加していない。

⁴⁰ 「ファベラ」と呼ぶ。

Q. いつ頃から ASMOCONP の活動に参加したか。

A. 私が関わり始めたのが 14 歳から 15 歳ぐらいの頃で、その頃はコミュニティ・スクールに関わっていたが、その後 ASMOCONP に入った。家族向け、親向けのプロジェクトを地域に持ち込んできた。

Q. この地区の変わり方が分かっていると思うが、下水道や道路などは自分たちで作ったのか、市役所などをお願いして作ってもらったのか。

A. 広場、保育園、学校に関しては、地域の人のもやいで建設した。上水道に関しては、水道公社に頼んだが、ものによっては自分たちで作ったものもある。資材やお金などを市役所や他のパートナーからもらったりしたことはある。

Q. 広場や保育園は人々が労働して作ったという意味か。それ以外の道路や上水道などの主なインフラストラクチャーは、市役所や政府が作ったということか。

A. 学校は市役所が作った。保健所も市役所が作った。道路の舗装も市役所にしてもらった。家は自分たちで作った。保育園は私たちが作った。

Q. 保育園の建物は自分たちで作ったが、保育園の設立は市役所ということか。土地はどうしたのか。建物を自分たちで建てたのか。

A. 建材は役所から寄付してもらった。建設作業自体は自分たちで行った。

Q. 土地、建材、労働力、保育園の機能が必要だと思うが、それぞれについてどのようにしたのか。

A. 土地は市役所、建材は企業、労働力は自分たちが用意した。できる人ができることをやった。

・その後、スイスから援助を受け、ブラジル人の建築士を雇った。スイスからの援助があり保育所の厚生が良くなった。

Q. 保育園の運営は誰が行っているのか。

A. 地域の人々がコーディネートして、市役所が子供のアテンドをしている。

Q. 保育所で働いている人の人件費は誰が支払っているのか。

A. 現在は市役所が払っている。その当時は、国際機関が支払っていた。

Q. 保育園の建築作業と保育園の運営について分けて聞きたいのだが。

A. 何の支援もなく、親たちが働き手を要請したり、ボランティアで働いたりしていた。子供を預かってもらいながら仕事をして、生活を良くすることが目的であった。運動などの影響で、国際機関から援助が来るようになった。他にもブラジル連邦政府の援助も来るようになった。現在は、市役所だけで運営している。

Q. 上水道は水道公社が作ったということであったが、下水道は誰が作ったのか。

A. 上水道と同じような方法で作った。

Q. ブラジルでは市民参加型予算編成というものは行われているのか。

A. 学校などでは行っている。

- ・例えば、市役所が ASMOCONP にパルメイラ地区分のお金を割り当て、それによりパルメイラ地区の人々が市役所のお金で市の行政を行う。

- ・フォルタレザでは行っているが、ここでは行っていない。

18:30-19:00

ジョアン・ジョアキン・メロ (João Joaquim de Melo) : パルマス銀行創設者

・パルマスが発行される以前は、パルマス銀行で消費者融資を受けて、クレジットをもらうので、売る方にとって損はない。

Q. カナダやアメリカで行っていた LETS とは違うのか。

A. そのようなカードが昔はあった。帳簿をカードに書いていた。10 年ぐらい前のことである。

Q. 1998 年にパルマス銀行が設立され、帳簿をつけていた後に、いつパルマスを発行し始めたのか。

A. 2001 年である。そのような掛け売りをやると月末に手続きが煩雑になるので問題であった。

Q. プレゼンテーションでは、地区内で買い物をする人が 10% から 90% になるということであった。90% の人が地区内で買い物をする消費量は多量になると思うが、自分の地域の買い物のうち何% を地区内で買うかによっては少なくなると思うがどちらか。

A. これは、60% 以上を地域内で買い物する人の割合のことを指している。

Q. 1 パルマスを発行するには 1 レアルを担保に持っていなければならないということで、それは中央銀行との協議で決まったと聞いたのだが、いつのことか。

A. はじめたときに、3 万レアルぐらい資金があり、それを無担保で発行していたというシステムがあるので、ずっとそのままできていた。

Q. それは中央銀行との協議はなく、自分たちで決めていたということか。

A. 最初のころは 2000 とか 3000 とかたいした額ではなかったのだが。

Q. 100% 準備という発想は自分で発見したのか、それとも誰か実践しているうちに気づいたのか。

A. もともと STRO と話をしていたとき、STRO は法定通貨を担保とした地域通貨には興味はなかったのだが、実際に商店が品物などを域外から仕入れなければならないという実情があり、レアルの担保がある地域通貨の方がよいと考えるようになった。

Q. 中央銀行との話し合いはなかったのか。パルマス銀行のお金が正式に認められるには、正式なルールが必要であるといったようなことについて。

A. 中央銀行とは 2 つ訴訟をやった。2003 年と 2008 年である。2003 年のときは、地域通貨の発行が違法ではないかという議論があり、そこで無罪（合法性）を勝ち取った。

Q. 2003 年の訴訟の際、100% 準備にするから無罪ということになったのか。

A. レアルの担保があるので、金融システムの安定性に危害を加えるものではないということになった。

Q. 100%準備でなくても、その半分であってもよいのでは。

A. それはできるかもしれないが、中央銀行との政治的な合意であるから。実際にはパルマスの発行額よりも、もっとレアルはある。マイクロ・クレジットを行うための別の資金があり、たくさんさんの担保がある。パルマスを発行するための担保なのか、マイクロ・クレジットを貸し出すための担保なのか分からない。

Q. 地産地消の中身に農業やサービスなどが含まれないのはなぜか。

A. 食糧などは土地がないので作ることが難しい。他の生産物を作るための技術がこの地区にはないため。

Q. どのような経済発展、人間発展を目指しているのか。

A. 地区内で生産できるものは限られている。連帯経済のネットワークを使えば、10 年後には、パソコンや車などの複雑な製品も作れるようになっていくだろう。

Q. 競争の良い面についてどのように考えるか。

A. 地域の生産、消費能力を超えた生産をしてしまうと、誰かが破産してしまうので、それを避けたい。その辺のバランスをとらなければならない。

Q. パルマスの発行量はどのようにコントロールしているのか。ある程度の成長率を達成するためにどれくらい発行量を増やすかなどといった金融政策のようなことはやっているか。

A. レアルがどれだけあるかにかかっている。地元の人々がどれだけのクレジットを頼むかにも関わってくる。結局住民がどれくらいクレジットを要求してくるかにも関わる。

Q. 最初から目標を決めて、貸出規制を強めたり、ゆるめたりということはしないのか。

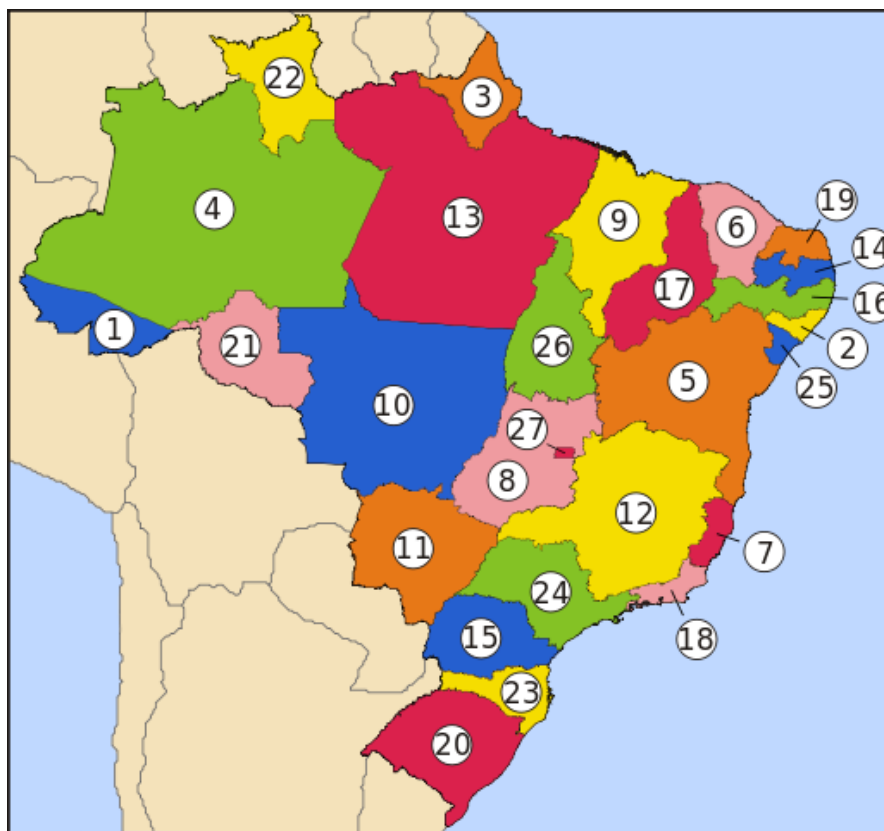
A. そのようなことはしない。市場が自己規制するから。法的な問題も（パルマスとレアルが 1 対 1 のパリティが必要）。

Q. 景気を調整することはできないということか。

A. 自分たちのサイクルがあるので、国の経済などは関係ない。パルメイラ地区には独自の経済循環があるので、アメリカなどの影響を受けなかった。価格は確かに国際市場の影響は受けるが、それと地域における通貨の流通は別のものである。それがいやであれば、なんでもかんでも地産地消にしなければならない。しかし、実際にはそれを行うことはできない。それが社会的通貨の限界である。

【巻末資料】

(図 9) ブラジルの州別地図



1	アクレ州	15	パラナ州
2	アラゴアス州	16	ペルナンブーコ州
3	アマパー州	17	ピアウイ州
4	アマゾナス州	18	リオデジャネイロ州
5	バイア州	19	リオグランデ・ド・ノルテ州
6	セアラ州	20	リオグランデ・ド・スル州
7	エスピリト・サント州	21	ロンドニア州
8	ゴイアス州	22	ロライマ州
9	マラニョン州	23	サンタカタリーナ州
10	マットグロッソ州	24	サンパウロ州
11	マットグロッソ・ド・スル州	25	セルジッペ州
12	ミナスジェライ州	26	トカンティンス州
13	パラ州	27	連邦直轄区
14	パライバ州		

(作者) Darlan P. de Campos

(出所) http://upload.wikimedia.org/wikipedia/commons/2/2e/Brazil_States.svg

パルマス銀行の概略（現地資料）



HISTORY

Conjunto Palmeira, a neighborhood of more than 30,000 residents located on the outskirts of Fortaleza, Ceara, Brazil, was founded in 1973. Due to redevelopment initiatives along the coast of the city enacted by the municipal government, fishing communities and other inhabitants were uprooted and forced to move inland. The inland district, known today as Conjunto Palmeira, was devoid of basic infrastructure such as water, roads, and electricity, thereby leaving the neighborhood vulnerable to floods and other natural and economic stability problems. Furthermore, the move inland left the primarily fishing-based community without a stable source of income. In 1981, the residents came together to improve their community, including infrastructure, thereby creating ASMOCOMP – the Association of Residents of Conjunto Palmeira (*Associação dos Moradores do Conjunto Palmeira*).

In January 1998, ASMOCOMP created Banco Palmas as a strategy to face unemployment, creating locally work and income opportunities for residents. As such, Banco Palmas was created as a popular finance tool operating under the principles and values of the “solidarity economy.”

The solidarity economy is defined as a) part of the “3rd sector” in which economic activity is aimed at expressing practical solidarity with disadvantaged groups of people, which contrasts with the private sector, where economic activity is aimed at generating profits, and the public sector, where economic activity is directed at public policy objectives, or b) a struggle seeking to build an economy and culture of solidarity beyond capitalism.

In 2000, Banco Palmas created the social currency *palmas*, which circulates in local commerce.

Social local circulating currency, also called “local currency” or “social currency” (*moeda local* or *moeda social*) is a currency complementary to the real (Brazilian national currency - R\$) and created by each community bank. The banks provide small amount loans not in real and in the local currency, which circulates only within the neighborhood. (The social currency of Banco Palmas is the “palma,” for example. Each community has its own with its own proper name.) One unit of local currency is equal to one real, and both currencies can be exchanged freely at any time. Incentives for local merchants and consumers exist to use the local currency by providing discounts to users. See: Credit for Local Consumption [section].

The social currency aims to make the “money” circulate in the community, thereby expanding the power of local commerce, increasing circulating wealth in the community, and generating both employment and income. The social currency, therefore, becomes an essential component in the strategies of community banks. Credits can help the economic growth of the district or county by creating new wealth. Local currencies ensure development by promoting that wealth circulates in the community itself.

By 2003, the solidarity finances methodology of CDBs was being discussed in several municipalities as an effective instrument in income generation for the poor. One year later, in September of 2004, the second CDB opened under the name Banco Par, in the municipality of Paracuru, Ceará, 70 kilometers from Fortaleza.

In March 2003, ASMOCOMP also established the *Instituto Palmas de Desenvolvimento e Socioeconomia Solidária* (a.k.a. Instituto Palmas), a non-profit, civil society organization created from the experience of ASMOCOMP in order to:

- Negotiate new and manage existing financial partnerships
- Assist in the implementation of community banks in other communities
- Gather data about the people and operations throughout the network
- Release official publications about the community bank experience in Brazil
- Provide staff and community trainings throughout the network
- Develop new and manage existing financial products

Legally, Instituto Palmas functions as a Civil Society Organization of Public Interest (OSCIP) of Micro-credit. It acts as an umbrella organization by managing the network and providing legal support to all community banks, many of which are just “local associations” with no institutional structure. As an OSCIP, Instituto Palmas can establish partnerships with the public sector and official banks, thereby generating resources and technologies for the benefit of the community banks that are part of the network.

By 2005, two more banks were established in the state of Espirito Santo – Banco Bem (Municipality of Vitoria) and Banco Terra (Municipality of Vila Velha). By 2008, there were 34 community banks in operation. As of February 2011, there are 52 community banks throughout 12 states in Brazil (see list below).



In January of 2006, *Banco Popular do Brasil* became a partner of the Brazilian Network of Community Development Banks as a guarantor of credit lines to the CDBs, through an agreement with the National Secretariat of Solidarity Economy (*Secretaria Nacional de Economia Solidária do MTE*). The agreement allowed not only Banco Palmas, but the entire network of community banks to have access to credit and to act as banking correspondents of *Banco Popular do Brasil*. During that same year, Petrobras decided to support the establishment of new CDBs in two other municipalities; adding up to twelve working CDBs in Brazil by the end of 2006.

Recently, the banks *Caixa Econômica* and *BNDSE* have risen as the main financial partners of Banco Palmas. *Zurich Brasil* has also played a substantial role in the development of the bank's financial products, specifically the new line of micro-insurance begun in September 2010. The importance of the Brazilian Network of Community Banks, namely the growth of the network in recent years, has been made possible by the National Program for Community Banks launched by SENAES in YEAR.

MICRO-FINANCIAL SERVICES

A) Microcredit

1. Microcredits are given to those who cannot access "official" sources of funding because of bureaucracy; guarantor, income level, and asset requirements; and other banking regulations.

2. Forms of Microcredit

a. Credit for Production, Consumption, or Service

For the improvement or creation of both formal and informal small businesses. Based in neighbor guarantees and with the preliminary approval of a Community Credit Agent (*Agente Comunitário de Crédito*), the loan must be presented to the Credit Committee which ultimately evaluates and approves the loans, made in amounts of up to R\$15,000.00 in up to 12 payments. Interest rates are progressive and range from 0.5% to 3.5%.

b. Credit for Productive Inclusion

"Instant credit" allowing the creditor to benefit from the day-to-day fluctuation of the market. Aimed toward families receiving government assistance through the Bolsa Família Program (up to R\$150), beauty product vendors (up to R\$400), and street vendors (up to R\$200), loans are re-paid in up to four payments and interest rates range between 1.5% and 2.5%. Creditors must present proof of trade or craft and justify the purpose of credit. On average 160 contracts per month are executed.

c. "Casa Produtiva"

Instant credit for the purpose of home renovation, with the objective to create or improve an income generating enterprise. The maximum value of the loans is R\$450, re-paid in up to six payments with an interest rate of 2.5%.

d. Credit for Local Consumption

Disbursed in social currency *palmas* in the maximum amount of R\$600 payable in up to four payments. Local businesses offers discounts for those who buy using the social currency. In 2010, 240 businesses in Conjunto Palmeira were accepting the social currency, offering an average discount of 5% for those who buy with it. The *palmas* is indexed to the real, backed by the official currency, and the exchange between the two currencies is legally permitted. As of 2010, 42,000 *palmas* were circulating in the neighborhood.

B) Microinsurance

"*Palmas Microseguro*" was launched in September 2010. It is a micro-insurance policy for low income, Banco Palmas clients. At a monthly cost of R\$27.30, it offers up to R\$3,000 life insurance policies (accidental or natural death), funeral cost coverage up to R\$1,000, and a R\$5,000 lottery every month for one year to clients. Those who buy more than three policies are allowed to pay in as much as six payments per year. On average 130 policies are sold per month.

C) Banking Correspondent

Banco Palmas has a strong role as a banking correspondent, helping the community to locally make and receive payments such as *bolsa família* and pension benefits, open checking and savings accounts, as



well as other banking services. This role is an important one for community banks in general because it allows basic banking access to communities who may be located very far from traditional banks, thereby making commuting difficult or impossible for elderly or disabled residents. On average 17,000 transactions per month are executed.

THE BRAZILIAN NETWORK OF COMMUNITY BANKS

Currently includes 52 banks throughout Brazil, each created with the experience and support of Banco Palmas. A community bank is not a branch of a central bank, rather part of a network, following reference and common work methods defined by the Brazilian Network of Community Banks. The following is some basic information about community development banks:

What are Community Development Banks?

Community Development Banks provide solidarity finances services in a network of associative and communitarian nature, directed towards the generation of jobs and income, having at its base the principles of the solidarity economy.

What are the main characteristics of the Community Development Banks?

1. The community itself decides to create the bank, becoming its manager and proprietor;
2. It always acts with two credit lines: one in Real currency (R\$) and another one in circulating social currency;
3. Its credit lines stimulate the creation of local production and consumption networks, promoting the auto-development of the area;
4. It supports enterprises as a commercialization strategy (solidarity shops, fairs, central office for commercialization etc.);
5. It acts in areas characterized by a high degree of exclusion and social inequality;
6. It is aimed at a public characterized by a high degree of social vulnerability, in particular the beneficiaries of governmental programs;
7. It aims to become financially sustainable in the short term, obtaining subsidies justified by their social utility.

What is the objective of a Community Development Bank?

To promote the development of low income areas through the encouragement and creation of local production and consumption networks. It operates with the support of the economic initiatives of the Solidarity Economy and its diverse scope, such as socio-productive enterprises, service providers, support for socio-commercial initiatives (markets, solidarity fairs), and consumer organizations.

What is the management structure of the Community Development Bank?

CDBs are managed from within the structure of the community organizations (associations, councils, forums etc) and other type of civil society initiatives that are recognized within the community, such as unions, NGOs, and churches. Its management involves a shared dimension with strong components of local social control, based on the mechanisms of direct democracy.

How do you finance Community Development Banks?

Its financing is done through access to public resources as well as a solidarity fund for community investment. This fund is formed from multiple sources: private, personal donations or those from legal entities; membership fees (from private or legal entities); commercial services provided that face no competition; and other types of services provided.

Who are the main potential customers of Community Development Banks?

Because of its condition as a citizen's initiative focused on the development of the area, CDBs are aimed at a public characterized by a high degree of social vulnerability in particular, including (but not limited to) women, youth, merchants, new entrepreneurs, etc.

What is the capacity of Community Development Banks?

To allow the methodology to work properly, CDBs operate primarily in communities of up to 50,000 inhabitants. It is possible to have more than one functioning CDB in the same community or neighborhood.

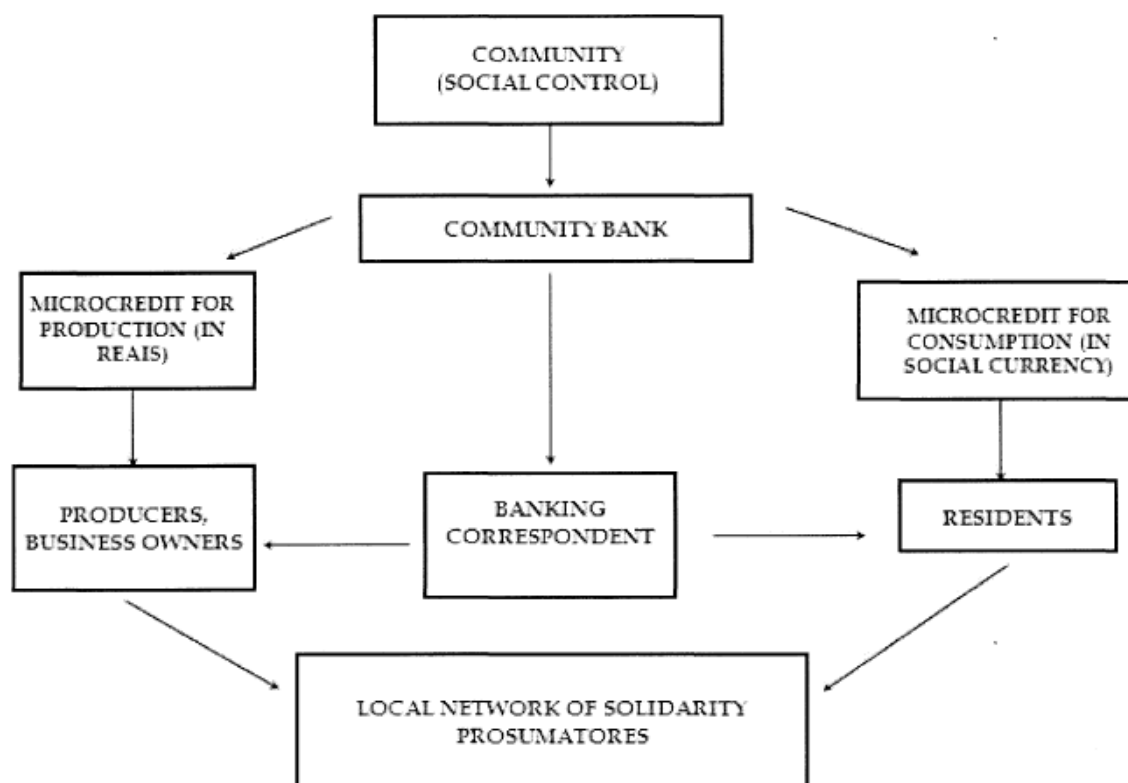
**CURRENCIES OF BRAZILIAN COMMUNITY BANKS**

	State	Municipality	Neighborhood	Bank Name	Currency Name
1	Ceará	Fortaleza	Bairro Conjunto Palmeira	Palmas	Palmas
2	Ceará	Fortaleza	Bairro Granja Portugal	RioSol	Rios
3	Ceará	Fortaleza	Conjunto Ceará	Bandesce	Horto
4	Ceará	Fortaleza	Bairro do Pirambu	Pirambu	Pirambu
5	Ceará	Fortaleza	Conj. S. Cristóvão	São Cristóvão	(IN PROCESS)
6	Ceará	Fortaleza	Bairro Edson Queiroz	DendeSol	Dende
7	Ceará	Santana do Acaraú	Sede do município	Bassa	Santana
8	Ceará	Palmeira	Sede do município	Serrano	Palmeira
9	Ceará	Maracanau	Bairro Jereissati	Jaçana	Maracana
10	Ceará	Maracanau	Bairro da Pajuçara	Paju	Maracana
11	Ceará	Paracuru	Bairros de Boa Esperança e Riacho doce	Par	Par
12	Ceará	Irauçuba	Distrito do Juá	Juazeiro	Cactos
13	Ceará	Irauçuba	Distrito do Missi	Bancart	Ta
14	Ceará	Irauçuba	Bairro do Cruzeiro	Amizade	Cactos
15	Ceará	Taua	Bairros de colibri, Bezera e Souza	Quinamuiú	Quinamuiú
16	Ceará	Parmoti	Todo o município	Frei Diogo	Paz
17	Ceará	Beberibe	Sede do Município	Bandesb	AB
18	Ceará	Maranguape	Sede do município	Empreendedores	Prata
19	Ceará	Maranguape	Distrito de Itapebussu	Itapebussu	Itapebussu
20	Ceará	Palhano	Sede do município	Artpalha	Castanha
21	Ceará	Tamboril	Sede do município	Feiticeiro	Acaraú
22	Ceará	Monsenhor Tabosa	Sede do município	Serra das Matas	Serra
23	Ceará	Madalena	Distrito de Macaoca	Bansol	Sol
24	Ceará	Ibaretama	Sede do município	Serra Azul	Ibaré
25	Ceará	Ocara	Sede do município	Ocards	Tupi
26	Ceará	Choro	Sede do município	Sertanejo	Sabia
27	Ceará	Caridade	Distrito de Campos Belos	Pe. Quiliano	Caribelos
28	Ceará	Itarema	Distrito de Almofala	Tremembé	Ita
29	Maranhão	Alcântara	Sede do município	Quilombola	Guara
30	Piauí	Cajueiro da Paria	Sede do Município	Caju da Praia	Caju
31	Piauí	Parnaíba	Bairro	Semear	Semear
32	Piauí	São João do Arraial	Sede do município	Cocais	Cocais
33	Paraíba	João Pessoa	Bairro São José	Beira Rio	Ribeirinhos
34	Paraíba	Belém	Ilha de Mosqueiro	Tupinambá	Moqueio
35	São Paulo	São Paulo	Bairro Jardim Apuanã	Apuanã	Apuanã
36	São Paulo	São Paulo	Bairro Jardim São Luis	Autogestão	Moradias em Ação
37	São Paulo	São Paulo	Bairro Jardim Donária	Vista Linda	Vista Linda
38	São Paulo	São Paulo	Bairro Inácio Monteiro	Paulo Freire	Freire
39	São Paulo	São Paulo	Bairro Campo Limpo	União Sampaio	Sampaio
40	Minas Gerais	Chapada Gaucha	Bairro Centro	Chapadense	Veredas
41	Minas Gerais	Uruana de Minas	Bairro Centro	Sussuarana	Uruana
42	Bahia	Simões Filho	Bairro de Santa Luzia	Eco luzia	Trilha
43	Bahia	Vera Cruz	Vila de Matarandiba	Ilhamar	Concha
44	Bahia	Cairu	Cairu Sede	Casa do Sol	Tinharé
45	Bahia	Salvador	Saramandaia e Pernambués	Guine	Samper
46	Espírito Santo	Vitoria	Bairros: Morro São Benedito	Bem	Bem
47	Espírito Santo	Vila Velha	Bairro Barro Vermelho	Terra	Terra



48	Espírito santo	Vila Velha	Bairro Barro Vermelho	Verde Vida	Verde Vida
49	Espírito Santo	Cariacica	Todo o município	Sol	Grassol
50	Mato Grosso do Sul	Dourados	Sede do Município	Pirapirê	Pirapirê
51	Rio G. do Sul	São Leopoldo	Sede do Município	Pontes Solidárias	Ponte
52	Rio de Janeiro	Silva Jardim	Sede do Município	Capivari	Capivari

DIAGRAM



2010 年パルマス・インスティテュート決算（現地資料）・・・廣田裕之訳

<収入の部>

項目	額（リアル）
雇用労働省 Ministério do Trabalho e Emprego (MTE)	160,000.00
民衆銀行からの業務手数料 Serviços correspondentes Banco Popular	197,001.20
カイシャからの業務手数料 Serviços correspondente Caixa	34,484.33
カイシャからの助成金 Caixa Econômica Federal - Patrocínio	30,000.00
セアラ州教育局（入金は 2011 年度） Secretaria de Educação do Ceará - SEDUC (Transferência P/2011)	74,196.90
ウォルマート・インスティテュート Instituto Walmart	102,130.00
フォルタレザ市役所文化局 Secretaria de Cultura - Prefeitura	6,000.00
セアラ州貧困撲滅基金 Governo do Estado - FECOP	645,000.00
書籍販売，講演謝礼およびコンサル Livros, palestras e consultoria	65,000.00
ペトロブラス社（半官半民の石油企業） Petrobrás	59,205.94
ブラジル北東部銀行 Banco do Nordeste do Brasil	181,030.00
ブラジル銀行財団・リファレンスセンター FBB - Centro de Referência	125,000.00
合計 Total geral	1,679,048.37

<支出の部>

項目	額（リアル）
地域社会へのプロジェクトへの直接行動にかかわる 労働者への支払い Pagamento dos trabalhasores envolvidos na ação direta dos projetos com a comunidade	502,775.06
税金 Impostos	42,738.39
事務経費 Administração	189,453.88
旅費・サービス Viagens e serviços	52,490.99
教育資料 Material didático	19,631.84
メンテナンスおよびリフォーム Manutenção e reforma	18,539.32
建設 Construção	125,000.00
グラフィック Gráfica	23,846.00
諸道具 Equipamentos/ Utensílios	42,314.25
その他 Outros	230,211.15
コミュニティ・バンク維持費 Manutenção dos bancos comunitários	108,160.00
ASMOCONP への助成金 Patricínio ASMOCONP	32,893.60
研修費 Treinamentos	43,256.00
奨学金 Bolsas	42,840.00
融資の支払い Pagamento de crédito	120,000.00
合計 Total geral	1,594,150.48

パルマス銀行の外観・内部およびパルメイラ地区周辺の様子（写真）



パルマス銀行における貨幣意識調査

小林 重人, 西部 忠, 栗田 健一, 橋本 敬

1. はじめに

本調査はお金に対する人々の意識（貨幣意識）を調べるものである。「貨幣意識」は、所与の貨幣制度の下での自己の行動を選択するための判断基準—支配的な国家通貨の使用・用途に関わる—のみならず、可能な貨幣制度の間で制度選択を行うとする場合に参照される判断基準—多様な貨幣の目的、発行、形態、運営、使用など貨幣制度に関わる諸要因に関わる—を問うている（小林・西部他 2010）。本調査は、現在までに日本国内のさまざまな集団のみならず、アルゼンチン、カナダ、イタリアの3カ国でも実施している。

2. 調査方法

パルマス銀行における調査は紙ベースの質問表（文末の付録参照）により行われた⁴¹。パルマス銀行で実施した調査対象者は、パルマス銀行の運営に関与する者と、パルマス銀行の利用者、そして ASMOCONP の住民集会に参加していた人たちを含めた計 32 名である。パルマス銀行で実施された調査の質問票は、日本語からポルトガル語に翻訳したものを使用した。図 1 は本調査における回答者の年齢分布である（年齢を回答しなかった 3 名を除く）。住民集会の参加者の多くが、若者で占められていたため、パルマス銀行運営者の貨幣意識というよりは、ASMOCONP の活動に関与する人たちの貨幣意識といったほうがよいだろう。

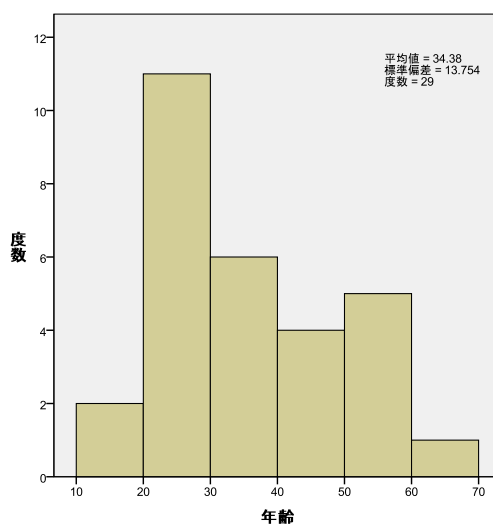


図 1 回答者全体の年齢分布

⁴¹ 本質問票の翻訳、配布、回収に宮崎氏、廣田氏のご協力をいただいたことをここに記して謝意を表する。

3. 調査内容

パルマス銀行の関係者に対して、貨幣意識に関する全 27 問の質問を提示した。質問にはそれぞれ「効率」、「自由」、「平等」、「安全」、「友愛」の 5 つのメタルールが設定されている。メタルールとは、どのような状況のときにどのような判断を行うか (if-then ルール) という規範や価値観の傾向であり、どういう価値基準に重きをおくのかという人々の価値観を表す 5 つの要因である。各質問は 5 つのメタルールのうち 1 つ以上の要素を持ち、質問によっては 2 つないし 3 つの要素を持つ質問もある。これら 5 つのメタルールは回答者には知らされていない。メタルールの適用と分析については、結果にて詳細に記述することにする。

個人属性変数としては、年齢、性別、職業、居住地が問われた。居住地に関しては、そのほとんどがフォルタレザ市在住のため、分析には含まない。それぞれの質問項目に対して「次の質問項目に自分がどの程度当てはまっているか」を「強い肯定」、「弱い肯定」、「どちらも当てはまらない」、「弱い否定」、「強い否定」の 5 段階で回答するよう依頼した。

4. 結果

4.1 平均得点

表 1 は、各質問項目の平均得点と得点の標準偏差を示したものである。得点は回答の 5 段階評価に対応させて、「強い肯定」に 5 点、「弱い肯定」に 4 点、「どちらも当てはまらない」に 3 点、「弱い否定」に 2 点、「強い否定」に 1 点と配点することで計算を行った。

各質問項目の平均得点は、全 27 問中 25 問で平均である 3 点を上回った。平均得点が 4 点以上となった質問項目は 8 問あった。とりわけ「政府が貧困層に生活保護を提供すべきであると思いますか」(設問 1, 4.09 点)、「政府が所定の年齢を超える全成人に最低限の生活のための基礎所得を一律給付すべきだと思いますか」(設問 10, 4.16 点)、「お金は、ごく一部の人々に集中せず、人々の間に分散すべきだと思いますか」(設問 18, 4.41 点)といった貧困層への金銭的支援や富の分散といった公平性を求める項目の得点が高くなっている。これはパルメイラ地区に居住する人々の多くが貧困層に属することが理由ではないかと考えられる。また、「お金の発行権を中央銀行や商業銀行だけでなく人々やコミュニティも持つべきだと思いますか」(設問 25, 4.00 点)、「お金は信頼できる集団や団体が発行するのがよいと思いますか」(設問 5, 4.00 点)の 2 問の得点の高さから、お金の発行権は人々やコミュニティも持つべきだと思うものの、その発行主体は信頼のできる集団や団体が望ましいと考えていることがわかる。これは地区内で地域通貨の価値が認められているとともに、発行主体であるパルマス銀行の信頼性を裏付ける結果である。法定通貨とは異なる通貨を是認する傾向を示すものとして「お金は一種類であるのがよいと思いますか」(設問 23, 2.78 点)という質問項目で 3 点を下回る結果が得られた。しかしながら、地域内だけで使用できるという地域通貨の特徴と矛盾する結果も得られている。「お金はどんな場所や地域でも通用する方がよいと思いますか」(設問 27, 4.00 点)という質問項目の平均得点は 4 点となっている。これが法定通貨を表しているのか、パルマスを表しているのかまではわからない。

表 1 質問項目の平均得点と標準偏差

	質問項目	平均得点	標準偏差
1	政府が貧困層に生活保護を提供すべきだと思いますか	4.09	1.30
2	お金に利子が付くのは当然だと思いますか	3.28	1.46
3	お金はたくさんなくとも、自由な時間があるのがよいと思いますか	4.16	1.08
4	人々が自由にお金を創造・発行できる方がよいと思いますか	3.34	1.41
5	お金は信頼できる集団や団体が発行するのがよいと思いますか	4.00	1.16
6	お金は健康ほど重要ではないと思いますか	3.69	1.60
7	お金で何でも買えるほうがよいと思いますか	3.66	1.29
8	お金の発行権を中央銀行や商業銀行だけでなく政府も持つべきだと思いますか	3.25	1.34
9	お金で友情や愛情は買えないと思いますか	3.38	1.77
10	政府が所定の年齢を超える全成人に最低限の生活のための基礎所得を一律給付すべきだと思いますか	4.16	1.14
11	お金は人と人とを結びつけるものであればよいと思いますか	2.88	1.39
12	お金は営利目的で発行してもよいと思いますか	3.47	1.48
13	お金の貸し手は商業銀行などの金融機関でなく、政府であるべきだと思いますか	3.22	1.39
14	ある程度の生活ができていれば、余分なお金は必要ないと思いますか	3.61	1.38
15	お金は儲ければ儲けるほどよいと思いますか	3.34	1.58
16	ボランティアや寄付は無償であるのがよいと思いますか	3.72	1.22
17	いろいろな種類のお金から好ましいものを選択することができれば良いと思いますか	3.28	1.37
18	お金は、ごく一部の人々に集中せず、人々の間に分散するべきだと思いますか	4.41	1.13
19	お金を、人々の間で融通し合うことは良いことだと思いますか	3.77	1.33
20	友人がお金で困っている時、貸してあげるのがよいと思いますか	3.59	1.39
21	お金の価値は安定していた方がよいと思いますか	4.19	1.03
22	生きていくために、国民通貨と異なる他のお金を利用できるのが良いと思いますか	3.38	1.45
23	お金は一種類であるのがよいと思いますか	2.78	1.31
24	ボランティアへの対価を支払う特別のお金があるのがよいと思いますか	2.91	1.28
25	お金の発行権を中央銀行や商業銀行だけでなく人々やコミュニティも持つべきだと思いますか	4.00	1.34
26	お金の使い道は人に知られない方がよいと思いますか	3.03	1.45
27	お金はどんな場所や地域でも通用する方がよいと思いますか	4.00	1.52

4.2 メタルール得点

既述のとおり、質問項目にはそれぞれ「効率」、「自由」、「平等」、「安全」、「友愛」の5つのメタルールが設定されている。回答アンケートに対してこれら5つメタルールを用いて分析を行った。

回答者それぞれのメタルール得点を表したものが、表2である。平均値に着目すると、どの指標も特に突出したものはなく、14点前後に位置していることがわかる。この傾向はこれまでの研究で明らかになっている地域通貨関係者の得点分布とは異なる（表1、小林・西部ら2010より抜粋）。これまで調査してきた地域通貨関係者の場合、友愛の得点の平均値が15.54点と一番高いことが特徴だが、今回の結果では、逆に「友愛」が13.75点と一番低く、「平等」が14.875点と一番高いことがわかる。この結果だけからは、パルマス銀行関係者が他の地域通貨関係者の貨幣意識と異なると言えるかどうかははっきりしない。というのも、すでに述べたように、今回のアンケート調査はパルマス銀行内で実施したものの、実際には、ASMOCONPの住民集会に参加した20歳代の若者が多数含まれており、その中には、貧困層に属する住民が少なくなかった。このため、「友愛」より「平等」が重視される結果になった可能性もあるからである。

表 2 個人のメタルール得点

id	効率	自由	平等	安全	友愛
1	15	15.5	17	14	15
2	9.5	12.5	17	15	14
3	18.5	17	15.5	16	15.5
4	13.5	18	17.5	17.5	13
5	13	16.5	16	12	17
6	11.5	8.5	12	13	13.5
7	13	9.5	14	15	14
8	15	9	11.5	13	13
9	11.5	15	19	14.5	14
10	15	16	16	15.5	15.5
11	19.5	17.5	18.5	15	14
12	13	12.5	15	16	11.5
13	19	16.5	16	18	14.5
14	14.5	10.5	15	15.5	13.5
15	14	12	14	13	11
16	15	15.5	15	16	15
17	15.5	14	15.5	15.5	12
18	11	12	16	16	16
19	16	16	16.5	12	12
20	10	11.5	13	8	10.5
21	17.5	15.5	14	12	14
22	14	14.5	11.5	10	12.5
23	14	15.5	16	15.5	12.5
24	13	12	11	11	12
25	12.5	11.5	11	10.5	11
26	11.5	14	12.5	13	12.5
27	13	15	11.5	10.5	11.5
28	18	19	17	16.5	15.5
29	18	18.5	17	16.5	15.5
30	16	18.5	16	16.5	17
31	14	16.5	15.5	12.5	13.5
32	15	17	13	15.5	18
標準偏差	2.56	2.89	2.23	2.42	1.90
平均値	14.36	14.47	14.88	14.08	13.75

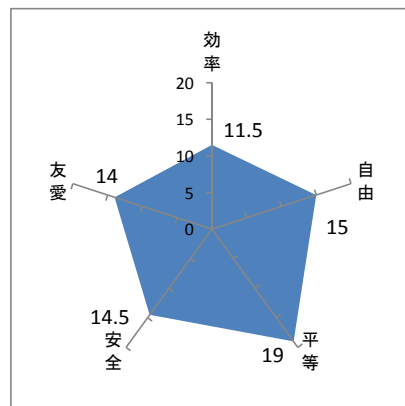


図 2 ジョアキン・メロ氏のメタルール得点チャート

そこで、パルマス銀行の創設者であるジョアキン・メロ氏の回答（緑色にマークされた id9）に着目してみた。彼の得点チャートは図 2 に示してある。彼の貨幣意識は、「効率」が一番低く、「友愛」はその次に低く、「平等」が最も高い。特に注目すべきは、「平等」において 19 点と、全回答者の中でもっとも高い得点を付けたことである。パルマス銀行関係者の貨幣意識が全体的に平等を高く評価する傾向にあるのは、創設者ジョアキンの意識の影響に依るものかもしれない。あるいは、現実には多くの住民が不平等と貧困という状況でおかれているので、ジョアキンもその

ことを一番重視しているのかもしれない。その他の重要人物として ASMOCONP の執行役員であるマリア・ソコーホ女史にも着目しておこう。彼女の結果は橙色にマークされた id18 に示されているもので、各メタルールにおいて突出して低い、または高い得点となっているわけではない。平等・安全・友愛が全体の平均値よりも高くなっているだけである。いずれにしても、パルマス銀行関係者の多くが友愛よりも平等を重視していることは確かなようである。

表 3 3 群におけるメタルール得点の分散分析

	地域通貨関係者	金融関係者	その他	有意確率
効率	13.54 2.98	14.46 1.82	13.89 2.13	.31
自由	13.52 2.2	11.15 1.99	12.32 2.08	.00
安全	13.69 2.12	12.06 1.42	13.15 1.93	.00
平等	14.46 2.82	9.33 1.86	11.6 2.53	.00
友愛	15.54 2.14	12.07 1.8	13.39 2.08	.00

上段:平均値, 下段:標準偏差

小林・西部 (2010) より抜粋

4.3 下位尺度

従来の分析で導出した、3 つの下位尺度（貨幣多様性、公平性・公共性、利益志向）という分析枠組みに当てはめて考えると、パルマス銀行の関係者の下位尺度得点は、金融関係者（主に日本で銀行に勤務）よりは地域通貨関係者に近い結果となっている（表 4、5）。しかし、地域通貨関係者よりも利益指向が強く、多様性がやや弱い傾向が見られる。利益志向が強い傾向は、金融関係者やその他の群と比較しても総じて高い。しかし、この点の有意性検定は実施していない。パルマス銀行関係者の利益志向が強いのは、パルマスという地域通貨が消費のための交換手段や融資として使われるだけでなく、生産や起業のための手段や融資としても使われているためではないかと考えられる。

表 4 これまでの 3 群における分散分析の結果

	地域通貨関係者	金融関係者	その他	有意確率
多様性	3.41 1.15	2.14 .50	2.76 .57	.00
公正	4.28 .45	3.06 .58	3.37 .60	.00
利益志向	2.72 1.14	2.80 .82	2.98 .84	.33

上段:平均値, 下段:標準偏差

小林・西部 (2010) より抜粋

表 5 パルマス銀行関係者の下位尺度得点

	平均	標準偏差
多様性	3.26	0.55
公平性・公共性	3.91	0.6
利益志向	3.45	1.03

前節で行った分析と同様に個人の下位尺度得点の比較も行った。ジョアキン・メロ氏の下位尺度得点に着目したところ、彼のみ多様性と公平性・公共性で 4.13 点と 4.14 点と 4 点を超える得点となっていた。とりわけ多様性で 4 点を超えたのは彼ともうひとりのみである。逆に利益志向は 2.67 点とパルマス銀行関係者の平均得点を下回るものであった。彼の貨幣意識は、金融関係者よりも地域通貨関係者にかなり近いと言える。

参考文献

小林 重人*, 西部 忠*, 栗田 健一, 橋本 敬 (2010) 「社会活動による貨幣意識の差異－地域通貨関係者と金融関係者の比較から－」, 『企業研究』, 中央大学企業研究所, 第17号, 73-91 頁. (*equal contribution)

付録 貨幣意識調査質問表（【 】で示されているのは設定したメタルール）

質問1: 政府が貧困層に生活保護を提供すべきだと思いますか？【安全】【平等】

質問2: お金に利子が付くのは当然だと思いますか？【効率】

質問3: お金はたくさんなくとも、自由な時間があるのがよいと思いますか？【自由】

質問4: 人々が自由にお金を創造・発行できる方がよいと思いますか？【自由】【平等】

質問5: お金は信頼できる集団や団体が発行するのがよいと思いますか？【安全】【効率】

質問6: お金は健康ほど重要ではないと思いますか？【安全】

質問7: お金で何でも買えるほうがよいと思いますか？【効率】【自由】

質問8: お金の発行権を中央銀行や商業銀行だけでなく政府も持つべきだと思いますか？【安全】【平等】

質問9: お金で友情や愛情は買えないと思いますか？【友愛】

質問10: 政府が所定の年齢を超える全成人に最低限の生活のための基礎所得を一律給付すべきだと思いますか？【平等】

質問11: お金は人と人とを結びつけるものであればよいと思いますか？【友愛】

質問12: お金は営利目的で発行してもよいと思いますか？【効率】【自由】

質問13: お金の貸し手は商業銀行などの金融機関でなく、政府であるべきだと思いますか？【安全】【平等】

質問14: ある程度の生活ができていれば、余分なお金は必要ないと思いますか？【安全】

質問15: お金は儲ければ儲けるほどよいと思いますか？【効率】

質問16: ボランティアや寄付は無償であるのがよいと思いますか？【友愛】

質問17: いろいろな種類のお金から好ましいものを選択することができれば良いと思いますか？【自由】【平等】

質問18:お金は、ごく一部の人々に集中せず、人々の間に分散すべきだと思いますか？【平等】

質問19:お金を、人々の間で融通し合うことは良いことだと思いますか？【友愛】

質問20:友人がお金で困っている時、貸してあげるのがよいと思いますか？【友愛】

質問21:お金の価値は安定していた方がよいと思いますか？【効率】

質問22:生きていくために、国民通貨と異なる他のお金を利用できるのが良いと思いますか？【安全】【友愛】

質問23:お金は一種類であるのがよいと思いますか？【効率】

質問24:ボランティアへの対価を支払う特別のお金があるのがよいと思いますか？【友愛】

質問25:お金の発行権を中央銀行や商業銀行だけでなく人々やコミュニティも持つべきだと思いますか？【自由】【平等】【友愛】

質問26:お金の使い道は人に知られない方がよいと思いますか？【自由】【安全】

質問27:お金はどんな場所や地域でも通用する方がよいと思いますか？【効率】【自由】